

# 有価証券報告書

事業年度 自 平成23年4月1日  
(第50期) 至 平成24年3月31日

株式会社 **エフピコ**

E02412

# 目 次

	頁
表紙	
第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1 主要な経営指標等の推移	1
2 沿革	3
3 事業の内容	5
4 関係会社の状況	7
5 従業員の状況	8
第2 事業の状況	9
1 業績等の概要	9
2 生産、受注及び販売の状況	11
3 対処すべき課題	13
4 事業等のリスク	14
5 経営上の重要な契約等	14
6 研究開発活動	15
7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	16
第3 設備の状況	17
1 設備投資等の概要	17
2 主要な設備の状況	17
3 設備の新設、除却等の計画	18
第4 提出会社の状況	19
1 株式等の状況	19
2 自己株式の取得等の状況	22
3 配当政策	23
4 株価の推移	23
5 役員の状況	24
6 コーポレート・ガバナンスの状況等	28
第5 経理の状況	35
1 連結財務諸表等	36
2 財務諸表等	66
第6 提出会社の株式事務の概要	90
第7 提出会社の参考情報	91
1 提出会社の親会社等の情報	91
2 その他の参考情報	91
第二部 提出会社の保証会社等の情報	92

[監査報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年6月29日
【事業年度】	第50期（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）
【会社名】	株式会社エフピコ
【英訳名】	FP CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 佐藤 守正
【本店の所在の場所】	広島県福山市曙町一丁目12番15号
【電話番号】	084(953)1145(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 経理財務本部本部長 池上 功
【最寄りの連絡場所】	広島県福山市曙町一丁目12番15号
【電話番号】	084(953)1145(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 経理財務本部本部長 池上 功
【縦覧に供する場所】	株式会社エフピコ東京本社 （東京都新宿区西新宿六丁目8番1号 新宿オークタワー36F） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第46期	第47期	第48期	第49期	第50期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
売上高 (百万円)	125,513	128,244	124,918	140,720	155,681
経常利益 (百万円)	6,453	9,298	12,220	13,465	14,951
当期純利益 (百万円)	4,157	5,302	7,114	7,959	8,093
包括利益 (百万円)	—	—	—	7,652	8,170
純資産額 (百万円)	51,023	54,248	59,808	64,440	70,202
総資産額 (百万円)	117,592	138,791	137,720	155,738	165,964
1株当たり純資産額 (円)	2,411.36	2,594.40	2,860.36	3,111.61	3,390.22
1株当たり当期純利益金額 (円)	192.18	253.29	340.67	380.90	391.03
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	43.3	39.0	43.4	41.4	42.3
自己資本利益率 (%)	8.2	10.1	12.5	12.8	12.0
株価収益率 (倍)	12.7	15.2	12.5	11.6	13.3
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	9,105	14,568	16,369	14,291	16,240
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△12,007	△5,725	△9,701	△8,201	△9,508
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,605	△960	△11,673	△3,919	△6,095
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	8,225	16,108	11,102	13,273	13,909
従業員数 (人)	2,695	2,890	3,019	3,666	3,781

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第46期	第47期	第48期	第49期	第50期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
売上高 (百万円)	119,297	120,187	114,462	116,674	123,232
経常利益 (百万円)	5,512	7,894	9,697	10,358	12,093
当期純利益 (百万円)	3,252	4,107	5,567	5,952	6,701
資本金 (百万円)	13,150	13,150	13,150	13,150	13,150
発行済株式総数 (千株)	22,142	22,142	22,142	22,142	22,142
純資産額 (百万円)	47,394	49,416	53,409	55,977	60,345
総資産額 (百万円)	105,753	133,021	128,723	140,304	149,308
1株当たり純資産額 (円)	2,242.35	2,366.14	2,557.43	2,704.46	2,915.49
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間 配当額) (円)	58.00 (28.00)	76.00 (33.00)	102.00 (50.00)	116.00 (58.00)	118.00 (58.00)
1株当たり当期純利益 金額 (円)	150.37	196.20	266.58	284.37	323.79
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	44.8	37.1	41.5	39.9	40.4
自己資本利益率 (%)	6.8	8.5	10.8	10.9	11.5
株価収益率 (倍)	16.3	19.6	16.0	15.5	16.1
配当性向 (%)	38.6	38.7	38.3	40.8	36.4
従業員数 (人)	636	648	667	695	707

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【沿革】

年月	概要
昭和37年7月	ポリスチレンペーパー製簡易食品容器の成型加工販売を目的として、福山パール紙工(株)を設立 本店を広島県福山市霞町に設置
昭和43年3月	本店を現在地（広島県福山市曙町）に移転
昭和50年9月	総合包装用品販売のチェーン店「モダンパック」を広島県福山市に開設
昭和54年7月	福山パール運輸(株)（現エフピコ物流(株)・連結子会社）を設立
昭和55年1月	物流の効率化、合理化のため福山配送センターを開設
昭和56年6月	その後各地（石狩、宮城、船橋、茨城、岐阜、西宮、佐賀）に配送センターを開設
昭和58年4月	食品販売のファッション化に対応してカラー食品容器の製造販売開始
昭和60年2月	東京支店を開設（東京都新宿区） 平成15年10月現所在地（東京都新宿区西新宿）に移転
昭和60年11月	大阪支店を開設（大阪市淀川区） 平成8年5月現所在地（大阪府豊中市）に移転
昭和62年1月	関東工場竣工（茨城県結城郡）
昭和62年4月	ソリッド食品容器の原反生産から成型加工までの一貫生産開始
昭和62年9月	エフピー商事(株)（現エフピコ商事(株)・連結子会社）を設立
昭和64年1月	笠岡工場竣工（岡山県笠岡市）
平成元年11月	商号を(株)エフピコに変更
平成2年9月	広島証券取引所へ株式上場
平成3年2月	使用済みトレーの回収リサイクルを笠岡工場で開始
平成3年4月	大阪証券取引所市場第二部へ株式上場
平成3年10月	東北工場竣工（宮城県黒川郡）
平成3年11月	関東リサイクル工場竣工（茨城県坂東市） 平成15年4月茨城県結城郡に統合 その後各地（石狩、宮城、岐阜、福山、佐賀）にリサイクル工場を開設
平成4年4月	リサイクル（再生）食品容器として初めて(財)日本環境協会からエコマーク表示の認定を取得 対象商品化された「エコトレー」を初めて上市
平成5年10月	中部工場竣工（岐阜県安八郡）
平成6年8月	九州工場竣工（佐賀県神埼郡）
平成9年12月	生産業務、物流業務の合理化のために分社化を開始
平成11年4月	新素材容器の一貫生産工場竣工（広島県福山市）
平成11年5月	福山リサイクル工場、福山工場、笠岡工場の2サイト、3工場にて「ISO14001」の認証を取得 その後、関東リサイクル工場にて認証取得
平成11年10月	神辺工場竣工（広島県福山市）
平成12年3月	「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて「内閣総理大臣賞」受賞
平成12年9月	東京証券取引所市場第二部に株式上場
平成12年11月	関東下館工場竣工（茨城県筑西市）
平成13年11月	関東リサイクル工場竣工（茨城県結城郡）
平成13年11月	東京支店を東京本社に昇格し、福山、東京2本社制に変更
平成14年2月	東京本社にキッチンスタジオを開設
平成14年2月	更生会社中国パール販売(株)及び更生会社パックドール(株)の再建スポンサーとして会社更生手続きを開始
平成15年3月	パックドール(株)（現(株)エフピコ山形・連結子会社）の更生手続き終結
平成15年7月	山形工場稼働開始（山形県寒河江市）
平成15年7月	東日本ハブセンター（現関東第一センター）竣工（茨城県結城郡）
平成16年3月	東日本サンプルセンター（茨城県坂東市）、西日本サンプルセンター（広島県福山市）を開設
平成16年5月	東北配送センター（宮城県黒川郡）を山形工場（山形県寒河江市）隣接地へ移転
平成17年5月	中国パール販売(株)（現エフピコチューパ(株)・連結子会社）の更生手続き終結
平成17年9月	愛知万博において環境活動に対する表彰「愛・地球賞」を受賞
平成17年9月	東京証券取引所市場第一部及び大阪証券取引所市場第一部に指定
平成17年11月	笠岡工場にて「ISO9001」の認証を取得
	その後、関東下館工場、近畿亀岡工場にて認証取得

年月	概要
平成18年8月	障害者雇用促進法による特例子会社を目的とする「㈱ダックス佐賀」（佐賀県神埼郡）を設立
平成18年9月	㈱ダックス四国が、独立行政法人 高齢・障害者雇用支援機構より理事長表彰
平成18年10月	障害者自立支援法による就労継続支援A型子会社を目的とする「広島愛パック㈱」（広島市西区）を設立 平成21年1月エフピコ愛パック㈱へ吸収合併
平成18年12月	「広島愛パック㈱」（現エフピコ愛パック㈱）が、民間企業で全国初となる「指定障害福祉サービス事業者」に指定
平成19年2月	関東下館第二工場竣工（茨城県筑西市）
平成19年3月	障害者自立支援法による就労継続支援A型子会社を目的とする「福山愛パック㈱」（現エフピコ愛パック㈱）（広島県福山市）を設立
平成19年4月	平成18年度「容器包装3R推進環境大臣賞」において、製品部門最優秀賞を受賞
平成19年8月	八千代センター（現関東第二センター）竣工（茨城県結城郡）
平成19年9月	中部第二工場竣工（岐阜県安八郡）
平成19年12月	本社新社屋竣工（広島県福山市）
平成20年8月	透明容器の選別を関東選別センターで稼働開始 その他各地（北海道、東北、東海、中部、金沢、西宮、福山、九州）に選別センターを開設し、リサイクル工場を関東、中部、福山へ統合
平成20年10月	九州第二工場竣工（佐賀県神埼郡）
平成20年11月	北海道配送センター竣工（北海道石狩市）
平成21年3月	(社)全国重度障害者雇用事業所協会より障害者雇用優良企業（ハートフル・リボン・マーク）の認定を取得
平成21年6月	大洋興業㈱より包装部門を事業譲受（エフピコチューバ㈱・連結子会社）
平成21年10月	日本パール容器㈱より食品容器事業を譲受、エフピコ日本パール㈱（富山県射水市）を設立（エフピコチューバ㈱・連結子会社）
平成22年4月	ユカ商事㈱より包装資材等の商品仕入事業を譲受（エフピコ商事㈱・連結子会社）
平成22年6月	アイ・ロジック福山ピッキングセンター竣工（広島県福山市）
平成22年6月	フィルム及びダンボールの製造・印刷メーカーである㈱アルライトを連結子会社化（エフピコ商事㈱・連結子会社）
平成22年10月	包装資材問屋であるインターパック㈱を連結子会社化
平成22年11月	中部リサイクル工場に、PETメカニカルリサイクルプラント1号機を導入
平成22年12月	鶏卵パックをはじめ農産品向け容器を製造販売するダイヤフーズ㈱及び同社の製品を生産するジャパンハイパック㈱を連結子会社化
平成23年2月	(財)日本環境協会が主催する「第1回エコマークアワード2010」金賞を受賞
平成23年4月	環境大臣より「エコファースト企業」として認定を受ける
平成23年5月	中部リサイクル工場のPETメカニカルリサイクルプラントで生産した再生PETフレックが、FDA（米国食品医薬品局）-NOLを取得
平成23年5月	アイ・ロジック中部ピッキングセンター竣工（岐阜県安八郡）
平成24年4月	関東八千代工場及びアイ・ロジック関東ピッキングセンター完工（茨城県結城郡）
平成24年5月	(財)日本環境協会よりエコマーク商品認定を取得した再生PET容器「エコAP」シリーズを上市
平成24年6月	中部リサイクル工場に、PETメカニカルリサイクルプラント2号機を導入

### 3【事業の内容】

当社グループは、当社、子会社34社及び関連会社1社により構成されており、「簡易食品容器関連事業」を主たる事業としており、トレー容器・弁当容器等の製造販売を中心として、その販売に付随する包装資材の販売も併せて行っております。

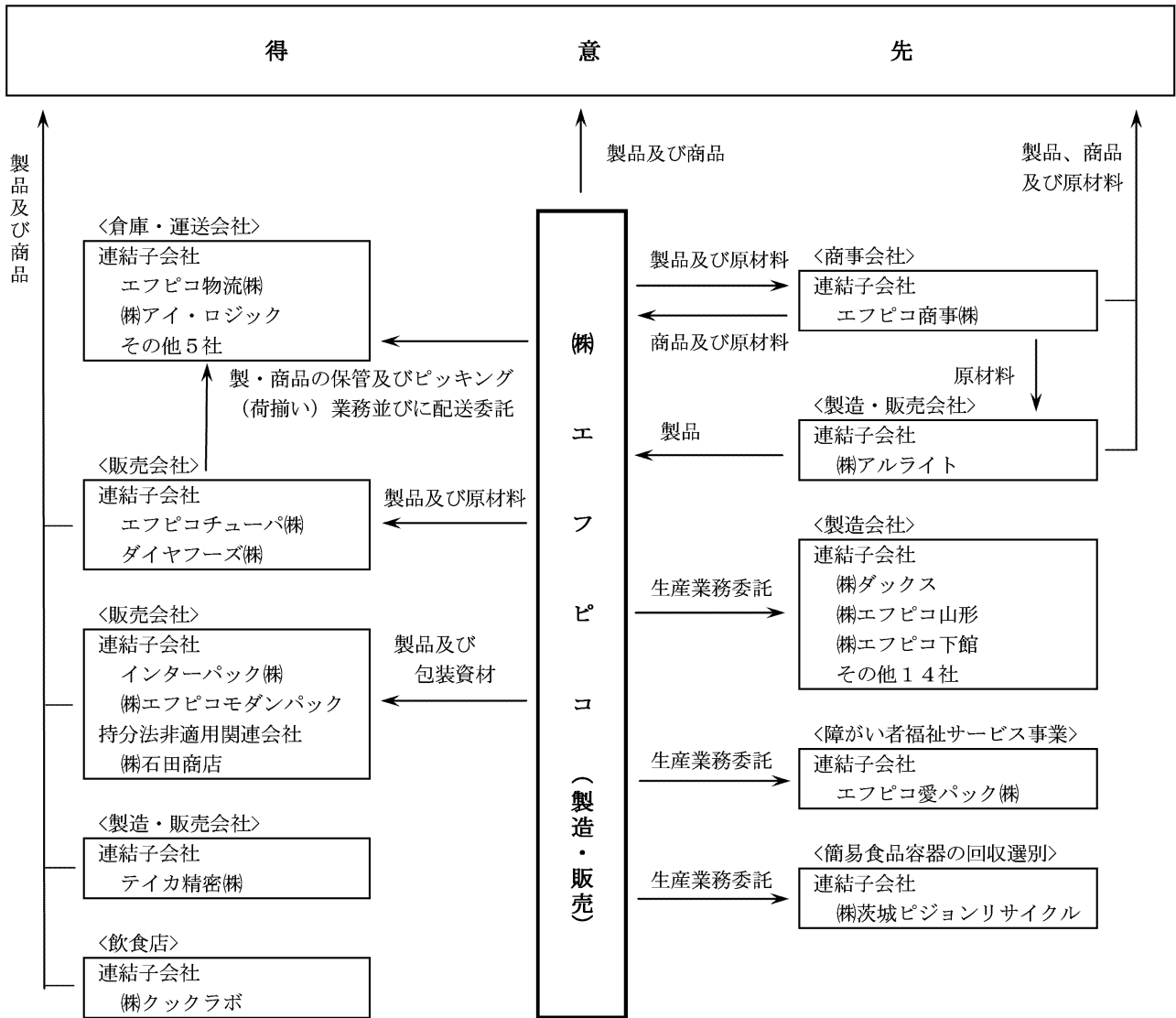
当社グループの事業における各社の事業及び役割は、次のとおりであります。

事業区分	主 な 役 割	主 な 会 社
簡易食品容器関連事業	合成樹脂製簡易食品容器の製造販売 包装資材及び包装機械等の販売	提出会社
	合成樹脂製簡易食品容器の製造に関わる原材料及び製商品の販売 輸出入業務	エフピコ商事(株) (注4)
	合成樹脂製簡易食品容器の製造販売	エフピコチューバ(株) ダイヤフーズ(株)
	合成樹脂製簡易食品容器の製造	(株)ダックス 他16社 (注1・2)
	プラスチックフィルムの製造販売	(株)アルライト (注4)
	障害者自立支援法に基づく障がい者福祉サービス事業	エフピコ愛バック(株)
	合成樹脂製簡易食品容器の回収選別事業	(株)茨城ビジョンリサイクル他1社
	包装資材等の販売小売業のフランチャイズチェーンシステムの運営 食品容器・包装資材等のカタログ通信販売	(株)エフピコモダンパック
	合成樹脂製簡易食品容器の販売 包装資材等の販売	インターパック(株)他1社
提出会社及び一部の子会社が販売する製・商品の保管及びピッキング業務並びに配送業務	エフピコ物流(株) 他6社 (注3)	
商事関連事業	機械等販売事業	エフピコ商事(株) (注4)
その他の事業	合成樹脂製精密部品成型事業	テイカ精密(株)
	ダンボール製造事業	(株)アルライト (注4)
	賃貸事業	エフピコ商事(株) (注4)
	飲食店の経営	(株)クックラボ

- (注) 1. エフピコ寒河江(株)は、平成23年7月26日に、南九州ダイヤフーズ(株)は、平成23年12月14日に新会社設立により、連結子会社となっております。
2. (株)エフピコエンジニアリングは、平成24年3月28日に、(株)エフピコ仙台は、平成24年3月30日に清算終了により、連結子会社から除外しております。
3. エフピコ中部物流(株)は、平成24年4月1日に吸収合併によりエフピコ関東ピッキング(株)（エフピコイーストロジ(株)へ社名変更）へ事業を承継しております。
- また、エクセル物流(株)及びエフピコ九州物流(株)は、平成24年4月1日に吸収合併によりエフピコピッキング(株)（エフピコウエストロジ(株)へ社名変更）へ事業を承継しております。
4. 複数の事業を営んでいる会社については、「商事関連事業」及び「その他の事業」にも主な会社として記載しております。



事業の系統図は次のとおりであります。



#### 4【関係会社の状況】

(連結子会社)

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
エフピコ商事(株)	広島県 福山市	400	合成樹脂製簡易食品容器の 原材料及び製商品の販売 金型・機械販売事業 賃貸事業	100.0	当社製品の製造に関わる 原材料の供給 資金援助 役員の兼任2名
(株)エフピコモダン パック	広島県 福山市	96	包装資材等の販売小売業の フランチャイズチェーンシ ステムの運営 包装資材等のカタログ通信 販売	100.0	当社製品及び食品関連包 装資材の販売 資金援助 役員の兼任1名
エフピコチューパ (株)	東京都 新宿区	100	合成樹脂製簡易食品容器及 び包装資材等の製造販売	100.0	当社製品及び食品関連包 装資材の販売 役員の兼任5名
エフピコ物流(株)	広島県 福山市	480	倉庫業及び貨物運送業	100.0	当社及び子会社製・商品 の保管及び配送業務 資金援助 役員の兼任1名
(株)アイ・ロジック	東京都 新宿区	80	運送及び倉庫管理運営事業	100.0	当社製・商品の運送及び 倉庫管理運営業務 役員の兼任4名
(株)アルライト	岡山県 笠岡市	10	ダンボール・プラスチック フィルムの製造販売	100.0	当社原材料の製造 資金援助
インターパック(株) (注) 2	千葉県 稲毛区	400	食品関連包装資材の販売	100.0	当社製品及び食品関連包 装資材の販売 資金援助 役員の兼任3名
ダイヤフーズ(株)	大阪府 池田市	86	合成樹脂製簡易食器容器の 製造販売	100.0	簡易食品容器の製造販売 資金援助 役員の兼任4名
その他26社	—	—	—	—	—

(注) 1. 上記各会社は、有価証券届出書または有価証券報告書は提出していません。

2. インターパック(株)については、売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く。）の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	16,912百万円
	(2) 経常利益	472百万円
	(3) 当期純利益	264百万円
	(4) 純資産額	835百万円
	(5) 総資産額	6,482百万円

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

当社グループは単一セグメントのため、事業部門別の従業員数を示すと次のとおりであります。

平成24年3月31日現在

事業部門の名称	従業員数（人）
管理部門	254 （ 4）
開発部門	69 （ 1）
製造部門	2,452 （ 269）
販売部門	619 （ 11）
物流部門	387 （ 181）
合計	3,781 （ 466）

(注) 1 従業員数は就業人員であります。

2 従業員数欄の（ ）内は、準社員（給与体系が時間給支給であっても就業時間が社員と同一の者）を内数で記載しております。

### (2) 提出会社の状況

当社は単一セグメントのため、事業部門別の従業員数を示すと次のとおりであります。

平成24年3月31日現在

従業員数（人）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年か月）	平均年間給与（千円）
707 (1)	38.7	12.6	6,431

事業部門の名称	従業員数（人）
管理部門	167 （ 1）
開発部門	49
製造部門	164
販売部門	327
合計	707 （ 1）

(注) 1 従業員数は就業人員であります。

2 従業員数欄の（ ）内は、準社員（給与体系が時間給支給であっても就業時間が社員と同一の者）を内数で記載しております。

3 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

### (3) 労働組合の状況

当社グループには、労働組合はありませんが、労使関係は良好であります。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災、電力供給の制約、欧州債務危機及び円高進行などにより減速し混迷の度合いを深めてまいりました。その後の復興需要の高まりや金融緩和により経済活動は、落ち着きを取り戻したものの、エネルギー価格の上昇を主因として、原材料価格が上昇するなど、依然として厳しい状況で推移しました。

このような状況下、販売面におきましては、東日本大震災の影響により消費が冷え込む中、第2四半期連結会計期間には製品値上げを実施し、同時に不採算取引の見直しを行いました。他方、汎用製品及び軽量化製品の拡販に加え、新デザイン容器や新機能容器であるマルチF P（-40℃～+110℃の耐寒・耐熱を備えた発泡ポリスチレン容器）の販売も好調であったことから、製品売上数量は前期比104.4%と伸長しました。

製品売上高は、販売数量が伸びたことに加え、平成22年12月に鶏卵パックや農産品向け容器の製造販売をするダイヤフーズ㈱を連結グループ化したこと、第2四半期連結会計期間からお客様にご協力いただいた製品値上げの効果が顕在化したことから、前期比108.2%と堅調に推移しました。

商品売上高は、平成22年10月に包装資材問屋のインターパック㈱が連結グループに加わり、商品取扱量の拡大にも努め、前期比117.8%となりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は1,556億81百万円、前期に比べ149億61百万円の増収（前期比110.6%）となり、過去最高の売上高となりました。

利益面におきましては、前期第4四半期連結会計期間から当社製品の原材料価格は次第に高騰を続け、原材料コストは前期に比べ約37億円の増加、設備投資など経費が約13億50百万円の増加となりました。一方、売上数量の増加、新製品効果、グループ全体でのコスト改善に加え、製品値上げによる効果などによる利益改善額は総額で約65億円となりました。

この結果、当連結会計年度の経常利益は149億51百万円（前期比111.0%）となり、過去最高の経常利益となりました。

当連結会計年度の当期純利益は、特別損失として、東日本大震災に関わる費用1億89百万円及び電力制限対策費（自家発電機移設費用）51百万円、合計2億41百万円を計上したことに加え、法人税率引下げに関する法律が公布されたことに伴う税金費用の増加2億63百万円がありましたが、結果は、80億93百万円（前期比101.7%）となり、過去最高益となりました。

設備面では、平成23年5月より中部第2配送センターとアイ・ロジック中部ピッキングセンターが稼働し、物流品質及びサービスレベルの更なる向上を図るとともに、流通コスト削減の提案を推し進め、平成23年8月から地方を地盤に店舗展開する大手スーパーマーケットへ食品用包装資材の納入を開始しました。

また、平成23年5月には、中部リサイクル工場のPET（ポリエチレンテレフタレート）メカニカルリサイクルプラントで生産された再生PETフレークを食品容器用途に使用することについて、米国食品医薬品局（FDA）よりNo Objection Letter（NOL）を取得しました。平成24年6月には、中部リサイクル工場にてPETメカニカルリサイクルプラントの2号機を導入いたしました。これらを踏まえPET樹脂におきましても、「トレートトレ」はもとより、「ボトルトトレ」の循環型リサイクルの実現に向け準備を進めており、平成24年5月にはリサイクル透明容器「エフピコエコAP」（登録商標）シリーズを上市いたしました。

さらには、PET二軸延伸製品（耐熱性向上と強度アップを実現したPET透明容器では世界初となる二軸延伸シートからの成型品）の生産工場と、商品取扱量拡大に向けたアイ・ロジック関東ピッキングセンターの拡充を目的とした物流設備を併設した関東新工場の建設が完了しました。平成24年4月からはピッキングセンター機能が稼働を開始し、さらに今夏からの生産工場の稼働とPET二軸延伸製品の上市に向けて準備を進めております。

なお、東日本大震災の被災により稼働を停止しておりました東北工場は、その生産機能を山形工場に完全移管しており、今後ピッキングセンターにリニューアルのうえ、東北地区復興に向けた物流サービスの提供に備え、製品はもとより商品の一層の拡販に努めてまいります。

社会的責任としての障がい者雇用の推進につきましては、全国9ヶ所の選別工場を主たる事業所として、折箱タイプ容器組立工場、特例子会社、リサイクル選別分野での事業提携会社も含めた事業所・工場等において、グループ全体で平成24年3月末現在399名の障がい者を雇用しております。これら障がい者は、主としてリサイクル回収トトレの選別作業に従事し、リサイクルペレットの品質向上に貢献しております。なお、営業外収益内の補助金収入7億39百万円につきましては、主に障がい者就労支援に関わる助成金等で、これにより、製造に関するリサイクルコストの低減につながっております。

また、平成24年2月22日からの3日間、『春呼ぶ 元気売り場 百選』をテーマにエフピコフェア2012を開催いたしました。約12,000名の方々にご来場いただき、新製品の拡販に加え、環境及びリサイクル、さらには物流サービスも含めたトータルでのお客様との取り組みが進んでおります。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末より6億36百万円増加し、139億9百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により獲得した資金は、162億40百万円増加（前期と比べ19億48百万円資金増加）となりました。

これは主に税金等調整前当期純利益145億69百万円と減価償却費97億28百万円、仕入債務の増加26億62百万円などによる資金の増加、売上債権の増加57億85百万円、たな卸資産の増加22億97百万円及び法人税等の支払額49億42百万円などによる資金の減少によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により支出した資金は、95億8百万円（前期と比べ13億6百万円支出増加）となりました。

これは主にピッキングセンター及び工場の生産設備等の取得による支出92億41百万円などによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により支出した資金は、60億95百万円（前期と比べ21億76百万円支出増加）となりました。

これは主に借入金等の純減少額10億77百万円、配当金の支払23億98百万円及びリース債務の返済による支出26億11百万円などによるものであります。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

#### 製品別生産実績

品目	生産高（百万円）	前年同期比（％）
製品		
トレー容器	19,148	128.9
弁当容器	43,111	119.9
その他製品	5,611	128.6
合計	67,870	123.0

(注) 1 生産高は、主として生産数量に見積り製造原価（単価）を乗じて算定しておりますが、その他製品の一部については、販売価格によっております。

2 当社グループは、簡易食品容器関連事業の単一セグメントであるため、品目別に記載しております。

3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

#### 製品・商品仕入実績

品目	仕入高（百万円）	前年同期比（％）
製品		
トレー容器	1,449	74.8
弁当容器	12,092	100.0
その他製品	1,012	272.3
小計	14,554	101.1
商品		
包装資材	31,435	126.5
その他商品	7,917	98.5
小計	39,353	119.6
合計	53,907	114.0

(注) 1 当社グループは、簡易食品容器関連事業の単一セグメントであるため、品目別に記載しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当社グループは、主として需要見込による生産方式のため、受注状況については特記すべき事項はありません。

(3) 販売実績

品目	販売高 (百万円)	前年同期比 (%)
製品		
トレー容器	28,681	102.3
弁当容器	76,842	106.9
その他製品	7,566	162.9
小計	113,090	108.2
商品		
包装資材	33,627	123.2
その他商品	8,963	101.0
小計	42,591	117.8
合計	155,681	110.6

(注) 1 総販売実績に対し、10%以上に該当する販売先はありません。

2 当社グループは、簡易食品容器関連事業の単一セグメントであるため、品目別に記載しております。

3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### 3 【対処すべき課題】

#### (1) 技術革新と新製品開発

最新鋭の生産設備の導入と更新を行い、製品の軽量化、新機能開発、新素材開発など、総合的な技術革新を押し進め、高品質で高付加価値な製品、低価格でありながら品質と機能を兼ね備えた製品等、お客様のニーズに対応した製品開発のスピードを早めてまいります。

#### (2) 提案型企業（問題解決型企业）の実現

市場の品質や機能・用途に対する要求の高まり、中食市場・個食市場の拡大、これら食環境の変化を先取りし、お客様のニーズに即した製品を提供し、容器を通じて売り場の差別化を図ってまいります。お客様の環境への取り組み・流通コストの削減に対しては、「エフピコ方式」リサイクルやエフピコのもつ物流ネットワークの提供等、小売業界が抱える問題解決に対しトータルで提案してまいります。

#### (3) 供給体制の強化

サプライチェーンマネジメント（SCM）のさらなる充実に努め、トータルコストの最適化と低減を目指した調達・生産及び物流体制の整備に取り組んでまいります。全国を網羅する物流ネットワークを最大限に活用し、より高い次元で合理化された物流サービスを提供するとともに、クリーンな環境で、誤出荷などのお客様クレームゼロを念頭に置き、鋭意努力してまいります。

#### (4) 環境経営の推進

「環境経営5ヶ年計画」を発展させた環境経営の新中期計画「エフピコエコアクション50：FPEA50」を実行してまいります。

また、循環型の「エフピコ方式」リサイクルを確立したエフピコならではの環境への取り組みを押し進め、自主的な回収の推進や再生トレイ（エコトレイ）の普及等、業界を牽引する各種施策を実施してまいります。

さらには、発泡スチロール製食品用トレイ及び透明食品容器の自主的な回収を加速し、透明食品容器においても再生トレイ（エコトレイ）の製品化に向けて鋭意努力してまいります。

#### (5) 社会的責任を重視した活動

障がい者就労支援に積極的に参画し、地域社会からの信頼を得るための活動を進めてまいります。

また、リサイクル工場・回収選別センター等の見学や展示会など様々な機会を通じて消費者の皆様とのコミュニケーションを深め、「安全・安心」をキーワードに、トレーサビリティもさらに強化し、製品の安全衛生・品質管理に努めてまいります。

#### (6) 知的財産権の強化

当社グループの独自性・差別化を市場においてより確実なものとするため、特許や実用新案・意匠登録などの申請を進め、知的財産権の取得により企業価値を高めてまいります。

#### (7) マーケット拡大への備え

開発力・生産力・物流力・情報力・リサイクル、物流・情報ネットワーク、これらエフピコの培ってきたリソースとインフラを有機的に結合し、マーケットの拡大に備えてまいります。



#### 4 【事業等のリスク】

当社グループの事業展開上リスク要因となる可能性があると考えられる重要な事項を記載しております。また、これらのリスクを認識した上で、発生回避及び発生した場合の素早い対応に努める所存であります。

なお、当該事項は、当連結会計年度末現在において判断しております。

##### 1 原材料価格のリスクについて

当社製品原料であるスチレンモノマーをはじめ、ポリスチレン樹脂等が急激かつ大幅に価格高騰した場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

##### 2 自然災害などのリスクについて

近年、地震、台風をはじめとする自然災害が各地で多発しております。

当社グループは、日本全国に工場、配送センター等の事業所を配置しております。これらの拠点設備が地震等による自然災害や火災などの事故で壊滅的な被害を受け、操業に重大な影響が発生した場合には、原材料の確保、生産、市場への製品供給等に支障をきたし、当社グループの業績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

##### 3 製造物責任のリスクについて

当社グループは、製品の開発と生産にあたっては、社内規格、関連法令を遵守してお客様への安全性、品質等に配慮して事業活動を行っております。しかしながら、予期しない製品の欠陥が生じ、損害賠償につながるリスクが顕在化する可能性があります。これに対応するための保険に加入し賠償への備えを行っておりますが、保険により補填できない重大な事態が生じる場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

##### 4 貸倒れのリスクについて

当社グループは、得意先の信用不安等により、予期せぬ貸倒れリスクが顕在化し、重大な貸倒損失、または引当金の追加計上が発生する場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 6【研究開発活動】

当社グループの研究開発は、多様化するお客様のニーズにお応えできる簡易食品容器を提供することを基本方針として、汎用トレイ、刺身容器、寿司容器、弁当容器、惣菜容器、オードブル容器、耐熱容器などの各カテゴリー別に新たな容器及び新素材の開発に取り組んでおります。

当連結会計年度は、CO<sub>2</sub>の削減及び原料の値上げに対応した軽量化素材の研究、高透明・高耐熱などの機能性容器の研究、生産性向上のための成形・押出・金型技術の開発、バイオマスプラスチックの実用化に向けた研究に努めてまいりました。

具体的な成果としては、次のとおりであります。

- ① 安全性を確保し食品直接接触が可能な、「トレイtoトレイ」及び「ボトルtoトレイ」PETリサイクルシステムの構築
- ② ハイスターの発泡倍率を上げ、断熱性向上及び軽量化を実現させた高発泡PP製品「ニューハイスターシリーズ」のさらなる高発泡化・軽量化の実現
- ③ 透明性と耐熱性を兼ね備えた「透明PPシリーズ」のさらなる高透明化の実現

当連結会計年度における主な成果は、以下のとおりであります。

新製品の開発状況

CO<sub>2</sub>削減や省資源化の推進はもちろんのこと、容器に持たせる機能性を重視した製品開発を進めてまいりました。

主な成果として以下の製品を上市しました。

- ① 寿司、刺身容器では、新形状の「大波皿シリーズ」、「陶皿シリーズ」、手前に向けて傾斜をつけた「磯皿シリーズ」、お皿のイメージの「丸皿シリーズ」、「半月皿シリーズ」、「扇皿シリーズ」を、ラップ用刺身容器では「みなとシリーズ」、透明蓋も兼用できるブリッジタイプの「豊山シリーズ」を製品化しました。また、ウッド容器の側材を高くして高級感をかもし出す「WP-300、400シリーズ」の製品化も行いました。
- ② 塩干容器では、開き用の容器として「豊漁シリーズ」を製品化し、汎用的にどんなものにも使用できる「平舟シリーズ」も製品化しました。
- ③ 惣菜容器では、マルチFPシートを使った「角デリシリーズ」、「丸カップシリーズ」、「ホットキッチンシリーズ」、温惣菜に適した「鍋丸シリーズ」の製品化を行いました。また黒の惣菜容器として、「AP惣菜シリーズ」、「AP-700シリーズ」、「APアルファシリーズ」に黒APETシートを用いて製品化を行いました。
- ④ 精肉用には、商品価値を落とさない段付き容器の「盛山シリーズ」の製品化を行いました。
- ⑤ 青果、サラダ用には、キラキラ感で鮮度が増して見える「APフレッシュ丸シリーズ」の製品化を行いました。
- ⑥ 弁当容器に関しては、マルチFPシートを使った「氷河膳シリーズ」、「平舟膳シリーズ」、洋風イメージの「クックシリーズ」、「洋皿シリーズ」の製品化を行い、折箱では側材を高くして高級感を出した「WUS膳シリーズ」を製品化しました。
- ⑦ 丼容器では、マルチFPシートで耐熱性のある「麺丼シリーズ」、「麺鉢シリーズ」、「盛丼シリーズ」、「角重シリーズ」を製品化し、丼シリーズのラインナップを揃えました。

※ マルチFPシート： 耐熱ポリスチレン（PS）の高発泡シートで、マイナス40～110度Cと冷凍保存から電子レンジ加熱に対応可能シート

当社グループは、簡易食品容器関連事業の単一セグメントであるため、開発部門の経費を研究開発費として記載しております。当連結会計年度の研究開発活動を担う開発部門の経費は、10億51百万円であります。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当社グループに関する財政状態及び経営成績の分析・検討内容は原則として連結財務諸表に基づいて分析した内容であります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

### 1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般的に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成しております。その作成には経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要とします。経営者は、これらの見積りについて過去の実績等を勘案し合理的に判断しておりますが、実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

当社グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、第5（経理の状況）の連結財務諸表の「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しておりますが、特に次の重要な会計方針が連結財務諸表作成における重要な見積りの判断に大きな影響を及ぼすと考えております。

#### ① 貸倒引当金の計上基準

売上債権等の貸倒れに備えて回収不能見積額（回収可能性）を検討し、貸倒引当金を計上しております。将来、取引先の財務状況が悪化し支払能力が低下した場合には、引当金の追加計上又は貸倒損失が発生する可能性があります。

#### ② 有価証券の減損処理

金融機関や販売又は仕入に係る取引会社の株式を保有しております。これらの株式は株式市場の価格変動リスクを負っているため、将来、株式市場が悪化した場合には多額の有価証券評価損を計上する可能性があります。

#### ③ 繰延税金資産の回収可能性の評価

繰延税金資産の回収可能性を評価するに際して将来の課税所得を合理的に見積っております。繰延税金資産の回収可能性は課税所得の見積りに依存しますので、その見積額が減少した場合は繰延税金資産が減額され税金費用が計上される可能性があります。

### 2) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

#### ① キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度の現金及び現金同等物の期末残高は139億9百万円となっており、前連結会計年度と比較して6億36百万円増加しています。

営業活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度より19億48百万円増加し162億40百万円のキャッシュ・インとなりました。これは、主に税金等調整前当期純利益145億69百万円と減価償却費97億28百万円、仕入債務の増加26億62百万円などによる資金の増加、売上債権の増加57億85百万円、たな卸資産の増加22億97百万円及び法人税等の支払49億42百万円などによる資金の減少によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、主に配送センター・ピッキングセンター及び工場の生産設備等有形固定資産の取得による支出92億41百万円などにより、前連結会計年度より13億6百万円の支出が増加し95億8百万円のキャッシュ・アウトとなりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の純減少額10億77百万円及び配当金の支払23億98百万円による支出、リース債務の返済による支出26億11百万円などにより、前連結会計年度より21億76百万円の支出が増加し60億95百万円のキャッシュ・アウトとなりました。

#### ② 資金需要について

当連結会計年度において実施いたしました新規設備投資の総額は120億93百万円であり、当該支出は自己資金及び借入金によりまかないました。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度中において実施いたしました当社グループの設備投資の総額は、120億93百万円であり、そのうち主なものは、提出会社が新設した新中部ピッキングセンター（アイ・ロジック中部ピッキングセンター）の建物、構築物ならびに備品22億17百万円、提出会社が増設した関東押出工場の生産設備5億29百万円、建設中の関東新工場の建物、構築物ならびに生産設備29億9百万円であります。

なお、当社及び当社グループは単一セグメントのため、セグメントに替えて事業部門別に記載しております。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

なお、当社及び当社グループは単一セグメントのため、セグメントに替えて事業部門別に記載しております。

##### (1) 提出会社

(平成24年3月31日現在)

事業所名 (所在地)	事業部門 の名称	設備の 内容	帳簿価額 (単位: 百万円)						従業員数 (人)	
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	土地		リース資産	その他		合計
					金額	面積 (㎡)				
本社 (広島県福山市)	管理部門	本社施設	843	11	455	12,709.25	13	569	1,892	139
東京本社(東京都新宿区) 等 (第一営業本部管轄)	販売及び 管理部門	販売業務 施設	282	7	212	5,189.47	2	100	607	263
山形工場 (山形県寒河江市)	製造部門	生産設備	889	471	735	63,243.32	689	163	2,949	9
関東工場 関東リサイクル工場 (茨城県結城郡八千代町)			1,224	1,550	1,890	52,366.41	1,590	203	6,458	16
関東下館工場 (茨城県筑西市)			2,803	725	1,464	53,794.59	1,576	345	6,915	7
中部工場 中部リサイクル工場 (岐阜県安八郡輪之内町)			3,005	1,962	418	31,431.74	803	127	6,318	14
笠岡工場 (岡山県笠岡市)			668	305	548	40,708.71	816	429	2,768	5
福山工場 福山リサイクル工場 (広島県福山市)			1,273	1,081	1,032	33,866.88	367	327	4,082	79
神辺工場 (広島県福山市)			386	186	778	40,379.00	597	230	2,179	3
九州工場 九州リサイクル工場 (佐賀県神埼郡吉野ヶ里 町)			1,202	190	345	29,107.89	572	54	2,365	7
総合研究所 (広島県福山市)			開発部門	研究開発 施設	190	88	92	3,389.83	20	94

(注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であります。

2 連結子会社からの賃借設備につきましては、提出会社の設備として記載しております。

3 設備の主なものは全て稼働中であります。

## (2) 国内子会社

(平成24年3月31日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	事業部門 の名称	設備の 内容	帳簿価額 (単位: 百万円)							従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装 置及び 運搬具	土地		リース資産	その他	合計	
						金額	面積 (㎡)				
エフピコ 物流㈱	北海道配送センター (北海道石狩市)	物流部門	保管・ 荷揃・ 出荷業 務設備	821	10	75	6,600.04	8	53	970	1
	東北配送センター (山形県寒河江市)			830	7	882	76,641.36	0	32	1,753	7
	関東ハブセンター (茨城県結城郡八千代町)			5,059	18	1,327	84,245.31	20	201	6,628	27
	中部配送センター (岐阜県安八郡輪之内町)			2,278	32	1,433	61,770.89	20	203	3,967	8
	関西配送センター (兵庫県西宮市)			539	2	1,867	7,752.00	—	4	2,413	2
	福山配送センター (広島県福山市)			4,292	39	4,144	194,796.90	39	365	8,881	45
	九州配送センター (佐賀県神埼郡吉野ヶ里町)			914	10	234	21,298.40	20	58	1,238	4

(注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であります。

2 連結会社間の賃貸借設備につきましては、借主側で記載しております。

3 設備の主なものとは全て稼動中であります。

## 3 【設備の新設、除却等の計画】

## (1) 重要な設備の新設等

需要の増大に対応するため、設備の増設を計画しております。

その計画の概要は次のとおりです。

(単位: 百万円)

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着手及び完了予定年月		完成後の 増加能力
			総額	既支払額		着手	完了	
提出会社	九州第2配送センター (佐賀県神埼市)	倉庫の増設	1,920	—	自己資金及び 借入金	平成24年 7月	平成25年 6月	九州地区の製品 保管能力が約 80%増加
	新関西ピッキング センター (神戸市北区)	倉庫用地の取得	1,006	985	自己資金及び 借入金	平成24年 6月	平成24年 6月	—
	合計		2,926	985				

(注) 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

## (2) 重要な設備の除却等

経常的な設備更新のための除却を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

##### ②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成24年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年6月29日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	22,142,106	22,142,106	東京証券取引所 大阪証券取引所 (各市場第一部)	「単元株式数100株」
計	22,142,106	22,142,106	—	—

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成16年4月1日 から 平成17年3月31日	(注) △2,050,000	22,142,106	—	13,150	—	15,487

(注) 発行済株式総数の減少は、自己株式の消却によるものであります。

## (6) 【所有者別状況】

平成24年3月31日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数100株）							単元未満株式の状況 (株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	55	30	141	131	0	2,757	3,114	—
所有株式数 (単元)	—	64,167	683	75,327	30,102	0	50,975	221,254	16,706
所有株式数の 割合(%)	—	29.00	0.31	34.05	13.60	0	23.04	100.00	—

- (注) 1 自己株式 1,444,124株は、「個人その他」に14,441単元及び「単元未満株式の状況」に24株含めて記載しております。なお、自己株式数1,444,124株は株主名簿上の株式数であり、実質的な所有株式数は1,444,024株であります。
- 2 「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、1単元含まれております。

## (7) 【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社小松安弘興産	東京都港区赤坂1丁目11番12号	6,041	27.29
株式会社エフピコ	広島県福山市曙町1丁目12番15号	1,444	6.52
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	1,051	4.75
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	819	3.70
積水化成成品工業株式会社	大阪市北区西天満2丁目4番4号	716	3.24
エフピコ共栄会	広島県福山市曙町1丁目12番15号	456	2.06
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(退職給付信託積水化成成品工業口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	450	2.03
株式会社西日本シティ銀行	福岡市博多区博多駅前3丁目1番1号	440	1.99
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 常任代理人 香港上海銀行東京支店	東京都中央区日本橋3丁目11番1号	382	1.73
ジェーピー モルガン チェース バンク 385174 常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行決済営業部	東京都中央区月島4丁目16番13号	382	1.73
計	—	12,184	55.03

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己株式) 普通株式 1,444,000	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 20,681,400	206,814	—
単元未満株式	普通株式 16,706	—	1単元(100株)未満 の株式
発行済株式総数	22,142,106	—	—
総株主の議決権	—	206,814	—

(注) 「完全議決権株式 (その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が100株含まれており、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれております。

② 【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
(自己保有株式) 株式会社エフピコ	広島県福山市曙町1丁目 12番15号	1,444,000	—	1,444,000	6.52
計	—	1,444,000	—	1,444,000	6.52

(注) 上記のほか株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が100株 (議決権1個)あります。なお、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式 (その他)」欄に含めております。

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。



## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
当事業年度における取得自己株式	224	1,154,000
当期間における取得自己株式	40	202,800

(注) 当期間における取得自己株式には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他	50	174,399	—	—
保有自己株式数	1,444,024	—	1,444,024	—

(注) 1 当事業年度の内訳は、単元未満株式の売渡請求による売渡であります。

2 当期間における処理自己株式数には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買増しによる売渡株式は含まれておりません。

3 当期間における保有自己株式数には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式は含まれておりません。

### 3【配当政策】

当社は、株主の皆様への利益還元を最重要課題の一つと考え、収益力の向上と財務体質の強化を図り、継続的かつ安定的な配当を実施していくことを経営方針としております。内部留保につきましては、経営体質の充実強化とともに事業拡大に向けての戦略投資等の機動的な実施に備えてまいります。また、これらを総合的に勘案しながら連結ベースでの配当性向30%を目途にまいります。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

当社は、「剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めのある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める。」旨定款に定めております。

当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき1株当たり118円の配当（うち中間配当58円）を実施いたしました。この結果、当事業年度の連結ベースでの配当性向は30.2%となりました。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日及び毎年3月31日を基準日として、また、その他の基準日を定めて剰余金の配当をすることができる。」旨定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当金 (円)
平成23年11月8日 取締役会決議	1,200	58
平成24年5月25日 取締役会決議	1,241	60

### 4【株価の推移】

#### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第46期	第47期	第48期	第49期	第50期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
最高(円)	4,260	4,890	4,690	5,160	5,520
最低(円)	2,305	2,190	3,330	3,500	4,280

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所市場第一部におけるものであります。

#### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年10月	11月	12月	平成24年1月	2月	3月
最高(円)	5,510	5,180	5,310	5,200	5,470	5,240
最低(円)	4,995	4,855	4,925	5,000	4,990	4,995

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役会長 (代表取締役)	最高経営責任者 (CEO)	小松 安弘	昭和12年7月17日生	昭和37年7月 福山パール紙工㈱ (現㈱エフピコ)設立、代表取締役社長 平成2年5月 エフビー商事㈱ (現エフピコ商事㈱) 代表取締役会長 平成10年8月 モダンパック中国㈱ (現㈱エフピコモダンパック) 代表取締役社長 (現任) 平成15年5月 中国パール販売㈱ (現エフピコチューバ㈱) 代表取締役会長 (現任) 平成15年6月 テイカ精密㈱代表取締役会長 (現任) 平成18年2月 (有)小松安弘興産 (現㈱小松安弘興産) 代表取締役社長 (現任) 平成20年6月 エフピコ商事㈱代表取締役会長兼社長 (現任) 平成21年6月 ㈱エフピコ代表取締役会長 兼最高経営責任者 (CEO) (現任) 平成21年7月 ㈱HYコーポレーション代表取締役会長 (現任) 平成22年12月 インターパック㈱代表取締役会長 (現任) 平成22年12月 ダイヤフーズ㈱代表取締役会長 (現任)	注4	375
取締役社長 (代表取締役)	最高執行責任者 (COO)	佐藤 守正	昭和34年6月2日生	昭和58年4月 三井物産㈱入社 平成10年6月 当社非常勤取締役 平成11年3月 三井物産㈱退社 平成11年4月 当社取締役経営戦略室室長 平成11年6月 常務取締役経営戦略本部本部長 平成12年6月 専務取締役経営戦略本部本部長 平成13年6月 代表取締役副社長兼経営戦略本部本部長 総務人事本部・経理財務本部・SCM本部管掌 平成21年6月 代表取締役社長 兼最高執行責任者 (COO) (現任)	注4	9
専務取締役 (代表取締役)	生産本部管掌 兼 業務改革推進室 管掌	下田 正輝	昭和16年8月22日生	昭和39年4月 積水化成工業㈱入社 平成15年7月 当社入社、顧問 平成16年6月 専務取締役業務改革担当 平成18年6月 代表取締役専務生産本部管掌 兼業務改革担当 平成19年8月 代表取締役専務商事本部本部長 兼生産本部管掌業務改革担当 平成20年6月 代表取締役専務業務改革担当 平成21年6月 代表取締役専務生産本部管掌 兼業務改革推進室管掌 (現任)	注4	3
専務取締役 (代表取締役)	第一営業本部本 部長 兼第二営 業本部管掌	笹部 太郎	昭和23年11月16日生	昭和46年12月 当社入社 平成8年6月 取締役東部営業本部本部長 平成10年6月 常務取締役東部営業本部本部長 平成12年10月 常務取締役第二営業本部本部長 平成17年6月 常務取締役第一営業本部本部長 平成21年6月 専務取締役第一営業本部本部長 兼第二営業本部管掌 平成24年6月 代表取締役専務第一営業本部本部長 兼第二営業本部管掌 (現任)	注4 注8	20
常務取締役	経理財務本部本 部長 兼経営企 画室ジェネラル マネージャー 兼秘書室東京本 社管掌	池上 功	昭和34年1月27日生	昭和57年4月 当社入社 平成14年6月 取締役東京本社支店長 平成14年7月 取締役経営企画室室長 平成19年6月 常務取締役経営企画室ジェネラル マネージャー 兼秘書室東京本社管 掌 平成21年6月 常務取締役経営企画室ジェネラル マネージャー 兼経理財務本部 管掌 兼秘書室東京本社管掌 平成24年6月 常務取締役経理財務本部本部長 兼経営企画室ジェネラルマネー ジャー 兼秘書室東京本社管掌 (現任)	注4	2

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常務取締役	総務人事本部本部長	金子 誠	昭和25年7月20日生	昭和48年4月 (株)三和銀行(現(株)三菱東京UFJ銀行) 入行 平成15年7月 当社出向、 総務人事本部副本部長 平成16年4月 当社移籍 平成16年6月 取締役総務人事本部副本部長 平成17年6月 取締役総務人事本部本部長 平成21年6月 常務取締役総務人事本部本部長 (現任)	注4	0
常務取締役	第二営業本部本部長	高西 智樹	昭和28年1月11日生	昭和57年9月 当社入社 平成14年7月 近畿営業第1部・2部・3部長 平成17年6月 取締役第二営業本部本部長 平成22年6月 常務取締役第二営業本部本部長 (現任)	注4	3
取締役	秘書室ジェネラルマネージャー兼アドバイス本部第二営業本部担当 兼環境対策室管掌	土利川 泰彦	昭和27年11月13日生	昭和50年4月 当社入社 平成13年6月 営業企画部長 平成15年6月 取締役財務部長 平成16年6月 取締役総務人事本部本部長 平成17年6月 取締役社長室長 平成19年6月 取締役社長室ジェネラルマネージャー 平成21年6月 取締役秘書室ジェネラルマネージャー 兼環境対策室管掌 平成23年6月 取締役秘書室ジェネラルマネージャー 兼アドバイス本部第二営業本部担当 兼環境対策室管掌 (現任)	注4	3
取締役	SCM本部本部長 兼SCMグループ企画部ジェネラルマネージャー 兼情報システム部管掌	安田 和之	昭和30年12月9日生	昭和54年9月 当社入社 平成12年11月 新システム準備室長 平成15年6月 取締役新システム準備室室長 平成15年7月 取締役業務改革推進室長 平成17年6月 取締役SCM本部副本部長 平成20年6月 取締役SCM本部本部長 平成21年6月 取締役SCM本部本部長 兼情報システム部管掌 平成24年4月 取締役SCM本部本部長 兼SCMグループ企画部ジェネラルマネージャー 兼情報システム部管掌 (現任)	注4	2
取締役	第一営業本部副本部長 兼東日本統括マネージャー	高橋 正伸	昭和34年5月25日生	昭和57年4月 当社入社 平成13年6月 営業第4部長 平成17年6月 取締役第一営業本部副本部長 平成21年4月 取締役第一営業本部副本部長 兼東京営業第6部ジェネラルマネージャー 平成22年4月 取締役第一営業本部副本部長 兼東京市場開発部ジェネラルマネージャー 平成22年7月 取締役第一営業本部副本部長 平成23年11月 第一営業本部副本部長 兼東京営業第3部ジェネラルマネージャー 平成24年4月 取締役第一営業本部副本部長 兼東日本統括マネージャー (現任)	注4	3
取締役	生産本部本部長	永井 信幸	昭和34年2月21日生	昭和52年4月 当社入社 平成16年7月 西日本製造セクター長 平成17年9月 生産本部副本部長 平成19年6月 取締役生産本部副本部長 平成21年6月 取締役生産本部本部長(現任)	注4	0

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	東京営業第1部 ジェネラルマネ ージャー 兼ス トア支援事業部 管掌 兼容器開 発部管掌	岡 恒治	昭和39年1月18日生	昭和61年4月 当社入社 平成19年4月 東京営業第1部ジェネラルマネ ージャー 兼容器開発部ジェネラル マネージャー 平成19年6月 取締役東京営業第1部ジェネラル マネージャー 兼容器開発部ジェ ネラルマネージャー 平成22年4月 取締役東京営業第1部ジェネラル マネージャー 兼ストア支援事業 部ジェネラルマネージャー 兼容 器開発部管掌 平成22年7月 取締役東京営業第1部ジェネラル マネージャー 兼ストア支援事業 部ジェネラルマネージャー 兼東 京市場開発部ジェネラルマネー ジャー 兼容器開発部管掌 平成23年4月 取締役東京営業第1部ジェネラル マネージャー 兼ストア支援事業 部ジェネラルマネージャー 兼容 器開発部管掌 平成24年4月 取締役東京営業第1部ジェネラル マネージャー 兼ストア支援事業 部管掌 兼容器開発部管掌 (現任)	注4	0
取締役	商事本部本部長 兼海外統括室ジ ェネラルマネー ジャー	江崎 義隆	昭和27年2月15日生	昭和50年4月 三井物産(株)入社 平成20年3月 三井物産(株)退社 平成20年4月 当社入社 平成20年6月 取締役商事本部本部長 平成24年4月 取締役商事本部本部長 兼海外統 括室ジェネラルマネージャー (現任)	注4	1
取締役	アドバイス本部 本部長 兼法 務・コンプライ アンス統括室ジ ェネラルマネー ジャー	高橋 稔	昭和29年4月9日生	昭和52年4月 (株)三和銀行(現 (株)三菱東京UF J銀行) 入行 平成19年9月 当社出向、法務・コンプライア ンス統括室ジェネラルマネージャー 平成20年6月 当社移籍、取締役法務・コンプラ イアンス統括室ジェネラルマネ ージャー 平成23年6月 取締役法務・コンプライアンス統 括室ジェネラルマネージャー 兼ア ドバイス本部第一営業本部担当 平成24年6月 取締役アドバイス本部本部長 兼 法務・コンプライアンス統括室ジ ェネラルマネージャー (現任)	注4	0
取締役	広域営業部ジェ ネラルマネー ジャー	佐藤 修	昭和32年8月7日生	昭和55年11月 当社入社 平成19年4月 東京営業第2部ジェネラルマネ ージャー 平成22年6月 取締役東京営業第2部ジェネラル マネージャー 平成24年4月 取締役広域営業部ジェネラルマネ ージャー (現任)	注4	13
取締役 (非常勤)		末吉 竹二郎	昭和20年1月3日生	昭和42年4月 (株)三菱銀行(現 (株)三菱東京UFJ銀 行) 入行 平成6年4月 同行ニューヨーク支店長 平成6年6月 同行取締役 平成8年4月 東京三菱銀行信託会社(ニューヨ ーク) 頭取 平成10年6月 日興アセットマネジメント(株)副社 長 平成15年7月 国連環境計画・金融イニシアチブ (UNEP FI) 特別顧問 (現任) 平成19年6月 (株)鹿兒島銀行社外監査役 (現任) 平成19年7月 一般社団法人日本カーボンオフセ ット代表理事 (現任) 平成21年5月 イオン(株)社外取締役 (現任) 平成22年6月 (株)インテグレックス社外取締役 (現任) 当社社外取締役(現任)	注4	0

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		唐井 正純	昭和25年10月9日生	平成元年8月 当社入社 平成10年6月 常勤監査役 平成11年6月 取締役経営企画室長 平成12年6月 取締役経営企画室長兼財務部長 平成14年7月 取締役財務部長 平成15年6月 エフピコ商事㈱代表取締役社長 平成16年6月 当社取締役退任 平成19年6月 エフピコ商事㈱取締役退任 当社常勤監査役(現任)	注7	2
常勤監査役		小林 敏朗	昭和24年7月23日生	昭和47年4月 積水化成工業㈱入社 平成16年10月 当社入社 平成17年1月 生産本部副本部長 平成17年6月 取締役生産本部本部長 平成21年6月 取締役退任 常勤監査役(現任)	注5	2
常勤監査役		坂田 幹彦	昭和20年7月24日生	昭和43年4月 三井物産㈱入社 平成11年12月 アジア航測㈱出向 平成14年8月 三井物産㈱退社 平成17年12月 アジア航測㈱ 常勤顧問 平成19年6月 アジア航測㈱退社 当社入社、当社常勤監査役(現任)	注7	0
常勤監査役		中居 敏郎	昭和29年1月25日生	昭和52年4月 ㈱広島相互銀行(現 ㈱もみじ銀行) 入行 平成20年6月 当社入社、当社常勤監査役(現任)	注6	0
計						445

- (注) 1 代表取締役社長佐藤守正は、代表取締役会長小松安弘の子の配偶者であります。  
2 取締役末吉竹二郎は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。  
3 監査役坂田幹彦及び中居敏郎は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。  
4 平成24年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から1年間  
5 平成21年6月26日開催の定時株主総会の終結の時から4年間  
6 平成22年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間  
7 平成23年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間  
8 平成24年6月28日開催の定時株主総会において取締役の選任が行われ、引続き開催の取締役会により、以下のとおり代表取締役の異動がありました。  
新任代表取締役 笹部 太一郎 (代表取締役専務第一営業本部本部長兼第二営業本部管掌)

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### ① 企業統治の体制

##### ・ 企業統治の体制の概要

当社は、監査役制度を採用し、取締役会及び監査役会を設置しております。

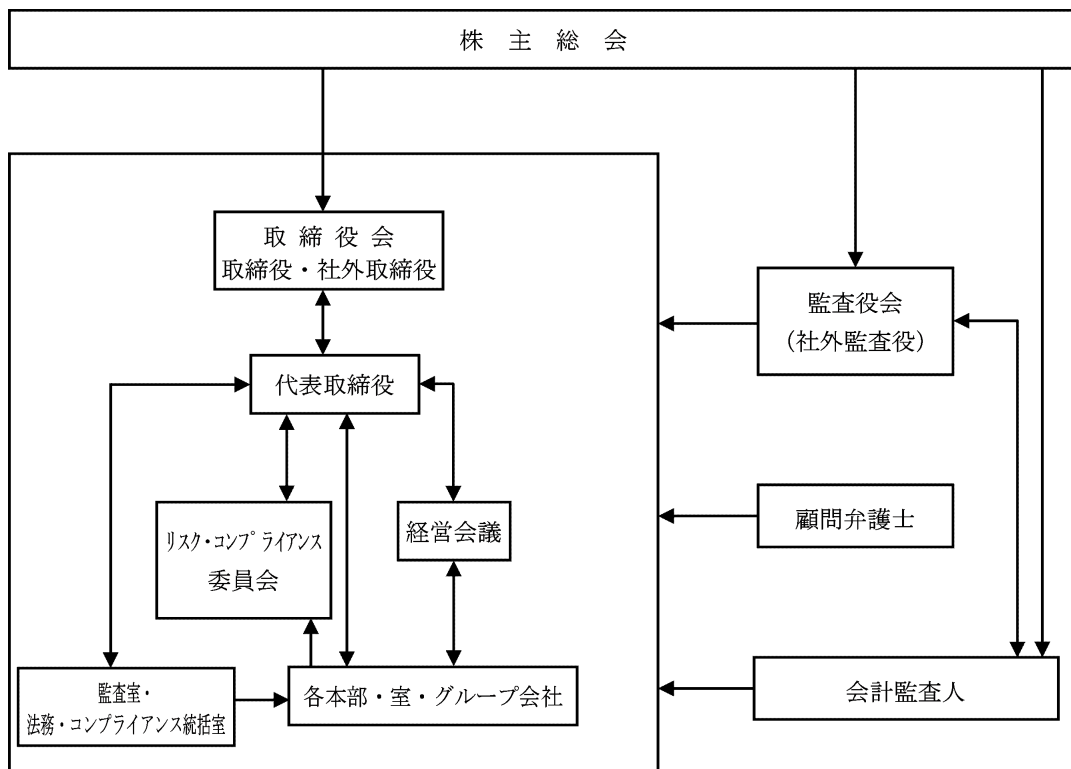
この他、経営会議を開催し、十分な論議ができる体制を敷いております。

取締役会は、経営の基本方針と重要事項の決定及び職務執行の監督を目的として、経営の透明性を確保し意思決定の迅速化を図るために、毎月、定例取締役会を開催し、必要に応じて、臨時取締役会を開催しております。

経営会議は、経営及び各業務運営管理に関する重要執行方針を協議する機関として、毎月開催しております。

監査役会は、常勤監査役4名で構成され、このうち2名が社外監査役であります。監査役は、法令、定款並びに監査役会規程、監査役監査基準及び内部統制監査実施基準に則り、経営の透明性を確保するため、取締役会やその他の重要会議に出席し、監査機能を発揮しております。

(コーポレート・ガバナンス体制図)



##### ・ 企業統治の体制を採用する理由

当社は、現在の企業規模・事業内容から判断して、監査役制度を採用しており、社外監査役は常勤で毎月経営監視すると共に、取締役会・経営会議等の主要な会議に出席し意見を述べるほか、代表取締役とも定期的に会合し、経営に対する要望・提言を行っております。また、社外取締役が、取締役の業務執行の適法性及び妥当性について監督できる体制を整え、経営の透明性を図っております。

・ 内部統制システムの整備の状況

平成18年5月8日の取締役会において、内部統制システム構築の基本方針を決定、これに基づきコンプライアンス、リスク管理の体制を整備し、効率的で適正な業務体制での運営を目指しています。

また、財務報告に係る内部統制報告制度の実施に伴い、社内に「内部統制プロジェクト」を発足、以後の全社的な管理体制として「内部統制委員会」を設置し体制の整備・モニタリングを行っております。

・ リスク管理体制の整備の状況

当社のリスク管理体制は、各部署が業務遂行に付随するリスクを「リスク管理規程」に基づき管理し、コンプライアンス、自然災害、安全衛生等の部門をまたがる全社的またはグループとして対応を必要とするリスクについては、リスク・コンプライアンス委員会が行い、同委員会の事務局を社長直轄の法務・コンプライアンス統括室が担当しております。

万一、不測の事態が発生した場合は、「危機管理規程」に基づき、リスク・コンプライアンス委員会委員長が緊急対策本部を設置して、危機的事態の早期終結及び再発防止策の検討・実施を行います。また、地震、火災、台風、大雨等の災害発生時の緊急連絡手段として、外部業者の通信システムを利用した緊急通報システム（エマージェンシー・コール）を導入して初動体制に万全を期しております。

コンプライアンスに関しては、「エフピコ行動憲章」、「エフピココンプライアンス行動規範」及び「行動羅針盤」等を用いて、健全な企業風土の醸成と業務関連法令や社内規程等の遵守に取り組んでおります。

② 内部監査及び監査役監査の状況

監査役は、会社の業務及び財産の状況調査、その他の監査業務の遂行にあたり、内部監査部門（監査室常勤者7名）と緊密な連携を保ち、効率的な監査を実施するよう努めております。このため、内部監査部門と定期的な会合を持つ事としております。

また、監査役は、会計監査人から会計監査上の重要事項について説明を求め、会計監査人の監査の方法及び結果の相当性を判断しております。このため、会計監査人との定期的な会合を持つ事としております。

なお、内部監査部門の責任者が、内部統制委員会、リスク・コンプライアンス委員会の委員として参加しており、内部統制、リスク管理の状況を把握できる体制を敷いております。

③ 社外取締役及び社外監査役

当社は、コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えており、社外取締役1名及び常勤の社外監査役2名を選任しております。社外役員3名は、取締役会、経営会議等の重要な会議に出席の上、豊富な経験と高い見識から適宜意見を述べており、コーポレート・ガバナンスの一層の向上に努めております。

④ 社外取締役及び社外監査役の選任基準

社外取締役及び社外監査役を選任するために独立性に関する基準または方針については、特別に設けておりません。



⑤ 役員報酬等

イ. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の額 (百万円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	401	265	—	80	55	18
監査役 (社外監査役を除く)	31	28	—	—	3	2
社外役員	38	35	—	—	2	3

(注) 1. 平成18年6月29日開催の第44回定時株主総会において、取締役の報酬を年額400百万円以内（使用人兼務取締役の使用人分給与を含まない。）、監査役の報酬額を年額80百万円以内と決議いただいております。

2. 上記の人数には、平成23年6月29日付けで退任した取締役1名、平成24年5月31日付けで退任した取締役1名及び、平成24年6月28日付けで退任した取締役1名を含んでおります。

3. 上記の退職慰労金は、当事業年度における役員退職慰労引当金の繰入額であります。

4. 上記のほか、平成23年6月29日開催の第49回定時株主総会決議に基づき、役員退職慰労金を次のとおり支給しております。

退任取締役 2名 21百万円

なお、この金額の中には、過年度において役員の報酬等の総額に含めた退職慰労引当金の繰入額（取締役分19百万円）が含まれております。

ロ. 報酬等の総額が1億円以上である者の報酬等の総額等

氏名	役員区分	会社区分	報酬等の種類別の額 (百万円)				報酬等 の総額 (百万円)
			基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
小松安弘	取締役	提出会社	108	—	16	22	146

(注) 上記の退職慰労金は、当事業年度における役員退職慰労引当金の繰入額であります。

ハ. 使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

総額 (百万円)	対象となる役員の員数 (人)	内容
116	10	使用人としての給与であります。

ニ. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社は、役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は、定めておりません。

⑥ 株式の保有状況

イ. 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

59銘柄 2,614百万円

ロ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的  
前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
積水化成工業(株)	2,697,867	882	当社製品原材料の安定供給等取引関係維持強化を図るため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	959,300	368	当社の主力銀行グループであり、取引関係強化を図るため
(株)高速	290,328	196	営業上の取引関係維持強化を図るため
(株)山口フィナンシャルグループ	113,911	87	当社の主力銀行グループであり、取引関係強化を図るため
(株)西日本シティ銀行	343,587	82	当社の主力銀行であり、取引関係強化を図るため
ホクト(株)	43,204	80	営業上の取引関係維持強化を図るため
(株)JSP	49,126	75	当社製品原材料の安定供給等取引関係維持強化を図るため
(株)T&Dホールディングス	34,600	70	保険加入による株式割当及び取引関係等の円滑化を図るため
イオン(株)	68,107	65	営業上の取引関係強化を図るため
マックスバリュ北海道(株)	46,011	60	営業上の取引関係強化を図るため
第一生命保険(株)	419	52	保険加入による株式割当及び取引関係等の円滑化を図るため
(株)丸久	50,533	39	営業上の取引関係強化を図るため
(株)イズミ	30,000	35	営業上の取引関係強化を図るため
(株)中国銀行	27,120	25	当社の主力銀行であり、取引関係強化を図るため
(株)広島銀行	52,890	19	当社の主力銀行であり、取引関係強化を図るため
(株)魚力	20,000	18	営業上の取引関係強化を図るため
(株)バロー	15,840	13	営業上の取引関係強化を図るため
原信ナルスホールディングス(株)	10,000	13	営業上の取引関係強化を図るため
(株)マミーマーケット	10,000	11	営業上の取引関係強化を図るため
(株)フジ	6,900	11	営業上の取引関係強化を図るため
日本ハム(株)	10,000	10	営業上の取引関係強化を図るため
(株)天満屋ストア	14,060	10	営業上の取引関係強化を図るため
(株)いなげや	10,000	8	営業上の取引関係強化を図るため
(株)百十四銀行	26,250	8	当社の取引銀行であり、取引関係強化を図るため
凸版印刷(株)	10,500	6	取引関係強化を図るため
(株)ポプラ	14,725	6	営業上の取引関係強化を図るため
(株)ライフ	5,091	6	営業上の取引関係強化を図るため
マックスバリュ西日本(株)	5,500	6	営業上の取引関係強化を図るため
(株)イチネンホールディングス	11,024	4	取引関係強化を図るため
(株)エコス	10,000	4	営業上の取引関係強化を図るため

当事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
積水化成工業(株)	2,697,867	817	当社製品原材料の安定供給等取引関係維持強化を図るため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	959,300	395	当社の主力銀行グループであり、取引関係強化を図るため
(株)高速	290,328	206	営業上の取引関係維持強化を図るため
(株)山口フィナンシャルグループ	113,911	85	当社の主力銀行グループであり、取引関係強化を図るため
イオン(株)	74,563	81	営業上の取引関係強化を図るため
(株)西日本シティ銀行	343,587	80	当社の主力銀行であり、取引関係強化を図るため
ホクト(株)	43,204	75	営業上の取引関係維持強化を図るため
マックスバリュ北海道(株)	50,182	72	営業上の取引関係強化を図るため
(株)T&Dホールディングス	69,200	66	保険加入による株式割当及び取引関係等の円滑化を図るため
(株)J S P	49,126	60	当社製品原材料の安定供給等取引関係維持強化を図るため
第一生命保険(株)	419	47	保険加入による株式割当及び取引関係等の円滑化を図るため
(株)イズミ	30,000	46	営業上の取引関係強化を図るため
(株)丸久	52,330	41	営業上の取引関係強化を図るため
(株)中国銀行	27,120	30	当社主力銀行であり、取引関係強化を図るため
(株)バロー	15,840	21	営業上の取引関係強化を図るため
アルビス(株)	100,000	20	営業上の取引関係強化を図るため
(株)広島銀行	52,890	19	当社主力銀行であり、取引関係強化を図るため
(株)魚力	20,000	19	営業上の取引関係強化を図るため
(株)マミーマート	10,000	14	営業上の取引関係強化を図るため
原信ナルスホールディングス(株)	10,000	13	営業上の取引関係強化を図るため
(株)天満屋ストア	16,427	12	営業上の取引関係強化を図るため
(株)フジ	6,900	12	営業上の取引関係強化を図るため
日本ハム(株)	10,000	10	営業上の取引関係強化を図るため
(株)百十四銀行	26,250	10	当社の取引銀行であり、取引関係強化を図るため
(株)いなげや	10,000	9	営業上の取引関係強化を図るため
(株)ポブラ	17,631	8	営業上の取引関係維持強化を図るため
(株)ライフ	5,580	7	営業上の取引関係維持強化を図るため
凸版印刷(株)	10,500	6	取引関係強化を図るため
マックスバリュ西日本(株)	5,500	6	営業上の取引関係維持強化を図るため
(株)エコス	10,000	4	営業上の取引関係維持強化を図るため

⑦ 会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した業務執行社員（公認会計士）は、近藤敏博及び高木政秋であり有限責任監査法人トーマツに所属しております。当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士6名、公認会計士試験全科目合格者等5名及びシステム監査担当者1名であります。

⑧ 会社と会社の社外取締役及び社外監査役の人的関係、資本関係又は取引関係その他の利害関係の概要

当社は、社外取締役が1名在任しております。監査役は、常勤で4名おり、うち社外監査役が2名おります。なお、社外取締役の末吉竹二郎氏は、イオン株式会社及び株式会社インテグレックスの社外取締役並びに、株式会社鹿児島銀行の社外監査役であります。イオン株式会社は、当社と取引関係にあり、その年間直接取引金額は同社グループに対する売上高6,277百万円になります。株式会社インテグレックスと株式会社鹿児島銀行については、当社との利害関係はありません。

社外監査役の坂田幹彦氏は、三井物産株式会社の出身ですが、平成14年に同社を退職しております。当社は同社グループと取引関係にあり、その年間直接取引金額は、同社グループに対する売上高12,650百万円、同社グループからの仕入高1,131百万円になります。

社外監査役の中居敏郎氏は、株式会社もみじ銀行の出身ですが、平成20年に同社を退職しております。同社は、当社の主要な借入先であります。

⑨ 取締役の定数

当社の取締役は20名以内とする旨定款に定めております。

⑩ 取締役の選任及び解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

また、解任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の過半数を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

⑪ 剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めのある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨定款に定めております。これは、剰余金の配当等を迅速かつ機動的に行うことにより、資金効率の向上を図ることを目的とするものであります。

⑫ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬 (百万円)	非監査業務に基づく報酬 (百万円)	監査証明業務に基づく報酬 (百万円)	非監査業務に基づく報酬 (百万円)
提出会社	44	2	45	2
連結子会社	—	—	—	—
計	44	2	45	2

② 【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容としましては、国際財務報告基準（I F R S）適用に向けて、日本会計基準との差異調査、I F R S適用による影響調査並びにI F R Sに基づくプロフォーマ（仮）財務情報に係る修正仕訳に関する助言・指導業務であります。

(当連結会計年度)

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容としましては、国際財務報告基準（I F R S）適用に向けて、日本会計基準との差異調査、I F R S適用による影響調査並びにI F R Sに基づくプロフォーマ（仮）財務情報に係る修正仕訳に関する助言・指導業務及びグループ会社を含めた経理部門の社員研修の講師業務であります。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬につきましては、監査業務の内容並びに監査日数等について、前年度の監査実績と当年度の監査計画とを勘案し、協議のうえ決定しております。

## 第5【経理の状況】

### 1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

### 3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、または会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、公益財団法人財務会計基準機構の行う研修に参加しております。

1 【連結財務諸表等】  
 (1) 【連結財務諸表】  
 ① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,273	13,909
受取手形及び売掛金	31,540	※4 37,328
リース債権及びリース投資資産	30	18
販売用不動産	12	12
商品及び製品	12,573	14,650
仕掛品	144	131
原材料及び貯蔵品	1,976	2,184
繰延税金資産	1,347	1,396
未収入金	2,696	2,296
その他	463	450
貸倒引当金	△47	△68
流動資産合計	64,011	72,310
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	69,843	72,707
減価償却累計額	△36,373	△38,593
建物及び構築物 (純額)	33,469	34,114
機械装置及び運搬具	※3 26,617	※3 28,870
減価償却累計額	△18,377	△20,397
機械装置及び運搬具 (純額)	8,240	8,473
土地	26,384	26,767
リース資産	16,356	15,928
減価償却累計額	△6,900	△7,839
リース資産 (純額)	9,455	8,088
建設仮勘定	1,513	3,789
その他	16,118	18,478
減価償却累計額	※2 △11,938	※2 △13,912
その他 (純額)	4,180	4,566
有形固定資産合計	83,244	85,798
無形固定資産		
のれん	2,192	1,671
その他	963	965
無形固定資産合計	3,155	2,637
投資その他の資産		
投資有価証券	※1 2,940	※1 3,001
繰延税金資産	1,059	1,020
その他	1,427	1,294
貸倒引当金	△101	△97
投資その他の資産合計	5,327	5,218
固定資産合計	91,727	93,654
資産合計	155,738	165,964

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	18,593	21,565
短期借入金	19,250	16,705
コマーシャル・ペーパー	15,000	15,000
リース債務	2,560	2,196
未払金	4,185	6,434
未払法人税等	2,465	4,032
未払消費税等	242	650
賞与引当金	1,576	1,735
役員賞与引当金	90	101
その他	2,719	2,129
流動負債合計	66,685	70,551
固定負債		
長期借入金	14,135	15,603
リース債務	7,410	6,403
繰延税金負債	30	27
退職給付引当金	1,837	1,971
役員退職慰労引当金	1,047	1,098
その他	150	106
固定負債合計	24,612	25,210
負債合計	91,298	95,762
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	13,150	13,150
資本剰余金	15,843	15,843
利益剰余金	40,092	45,784
自己株式	△4,937	△4,938
株主資本合計	64,148	69,840
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	256	330
その他の包括利益累計額合計	256	330
少数株主持分	35	31
純資産合計	64,440	70,202
負債純資産合計	155,738	165,964



②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
売上高	140,720	155,681
売上原価	※2 97,992	※2 108,687
売上総利益	42,728	46,993
販売費及び一般管理費	※1, ※2 29,669	※1, ※2 32,772
営業利益	13,058	14,221
営業外収益		
受取利息	17	8
受取配当金	76	67
受取賃貸料	113	94
補助金収入	561	739
スクラップ売却益	123	128
その他	227	262
営業外収益合計	1,120	1,301
営業外費用		
支払利息	499	411
その他	215	160
営業外費用合計	714	571
経常利益	13,465	14,951
特別利益		
固定資産売却益	※3 2	※3 4
受取保険金	※5 531	—
投資有価証券売却益	14	—
貸倒引当金戻入額	89	—
賞与引当金戻入額	32	—
負ののれん発生益	219	—
その他	51	—
特別利益合計	942	4
特別損失		
固定資産除売却損	※4 198	※4 33
災害による損失	※6 695	※6 241
投資有価証券評価損	6	89
その他	56	21
特別損失合計	956	386
税金等調整前当期純利益	13,450	14,569
法人税、住民税及び事業税	5,106	6,490
法人税等調整額	381	△17
法人税等合計	5,487	6,473
少数株主損益調整前当期純利益	7,962	8,096
少数株主利益	3	2
当期純利益	7,959	8,093

## 【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	7,962	8,096
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△310	74
その他の包括利益合計	△310	* 74
包括利益	7,652	8,170
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	7,649	8,167
少数株主に係る包括利益	3	2

## ③【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)		当連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	
<b>株主資本</b>				
資本金				
当期首残高		13,150		13,150
当期変動額				
当期変動額合計		—		—
当期末残高		13,150		13,150
資本剰余金				
当期首残高		15,497		15,843
当期変動額				
自己株式の処分		346		0
当期変動額合計		346		0
当期末残高		15,843		15,843
利益剰余金				
当期首残高		34,426		40,092
当期変動額				
剰余金の配当		△2,294		△2,400
当期純利益		7,959		8,093
当期変動額合計		5,665		5,692
当期末残高		40,092		45,784
自己株式				
当期首残高		△3,905		△4,937
当期変動額				
自己株式の取得		△1,861		△1
自己株式の処分		829		0
当期変動額合計		△1,032		△0
当期末残高		△4,937		△4,938
<b>株主資本合計</b>				
当期首残高		59,169		64,148
当期変動額				
剰余金の配当		△2,294		△2,400
当期純利益		7,959		8,093
自己株式の取得		△1,861		△1
自己株式の処分		1,175		0
当期変動額合計		4,979		5,691
当期末残高		64,148		69,840

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
<b>その他の包括利益累計額</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	566	256
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△310	74
当期変動額合計	△310	74
当期末残高	256	330
<b>その他の包括利益累計額合計</b>		
当期首残高	566	256
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△310	74
当期変動額合計	△310	74
当期末残高	256	330
<b>少数株主持分</b>		
当期首残高	72	35
当期変動額		
連結子会社株式の取得による持分の増減	△40	—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3	△4
当期変動額合計	△37	△4
当期末残高	35	31
<b>純資産合計</b>		
当期首残高	59,808	64,440
当期変動額		
剰余金の配当	△2,294	△2,400
当期純利益	7,959	8,093
自己株式の取得	△1,861	△1
自己株式の処分	1,175	0
連結子会社株式の取得による持分の増減	△40	—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△307	70
当期変動額合計	4,631	5,761
当期末残高	64,440	70,202

## ④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>				
税金等調整前当期純利益		13,450		14,569
減価償却費		9,316		9,728
負ののれん発生益		△219		—
賞与引当金の増減額 (△は減少)		△50		158
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)		4		10
貸倒引当金の増減額 (△は減少)		△97		17
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)		93		50
退職給付引当金の増減額 (△は減少)		175		134
投資有価証券評価損益 (△は益)		6		89
固定資産除売却損益 (△は益)		196		29
受取利息及び受取配当金		△94		△75
支払利息		499		411
投資有価証券売却損益 (△は益)		△14		0
受取保険金		△531		—
災害損失		695		241
売上債権の増減額 (△は増加)		△1,109		△5,785
たな卸資産の増減額 (△は増加)		△1,110		△2,297
未収入金の増減額 (△は増加)		△35		△97
仕入債務の増減額 (△は減少)		1,135		2,662
その他の資産・負債の増減額		△1,321		644
未払消費税等の増減額 (△は減少)		△415		408
その他		363		625
小計		20,937		21,525
利息及び配当金の受取額		94		76
利息の支払額		△503		△392
保険金の受取額		31		500
災害損失の支払額		△19		△526
法人税等の支払額		△6,191		△4,942
その他		△56		—
営業活動によるキャッシュ・フロー		14,291		16,240

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△10,780	△9,241
無形固定資産の取得による支出	△274	△308
投資有価証券の取得による支出	△19	△80
投資有価証券の売却による収入	522	8
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	1,466	—
長期貸付けによる支出	△70	△30
長期貸付金の回収による収入	747	95
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△115	—
その他	323	47
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△8,201</b>	<b>△9,508</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△3,140	△1,100
コマーシャル・ペーパーの純増減額 (△は減少)	5,000	—
長期借入れによる収入	13,000	13,700
長期借入金の返済による支出	△11,460	△13,677
自己株式の取得による支出	△1,723	△1
リース債務の返済による支出	△3,003	△2,611
配当金の支払額	△2,291	△2,398
少数株主への配当金の支払額	—	△6
その他	△300	0
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△3,919</b>	<b>△6,095</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,170	636
現金及び現金同等物の期首残高	11,102	13,273
現金及び現金同等物の期末残高	※ 13,273	※ 13,909

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 34社

子会社は全て連結しております。

主要な連結子会社の名称

「第1企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため、省略しております。

エフピコ寒河江㈱及び南九州ダイヤフーズ㈱は、当連結会計年度において、新たに設立したことにより連結の範囲に含めております。

㈱エフピコエンジニアリング及び㈱エフピコ仙台は、清算終了したことにより、連結子会社の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用しない関連会社のうち主要な会社等の名称

㈱石田商店

持分法を適用しない理由

持分法非適用会社は、当期純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用の範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

全ての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

①有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

②たな卸資産

商品、製品、半製品、原材料及び仕掛品

月次総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定）を採用しております。

販売用不動産

個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定）を採用しております。

貯蔵品

最終仕入原価法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定）を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産を除く）

主として定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については、定額法を採用しております。

また、連結子会社のエフピコ商事㈱が貸与目的で取得した有形固定資産及び倉庫事業を営む子会社については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 15～35年

機械装置及び運搬具 4～8年

②無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

③リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

①貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

②賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

③役員賞与引当金

当社及び一部の連結子会社は、役員賞与の支出に備えて、当連結会計年度における支給見込額に基づき計上しております。

④退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日翌連結会計年度より損益処理しております。

⑤役員退職慰労引当金

当社及び一部の連結子会社は、役員退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。

(4) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、金額の重要なもののみ発生日以降5年間の定額法により償却を行い、その他のものは発生時に全額償却しております。

(5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

①消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

②収益及び費用の計上基準

ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

売上高を計上せず利息相当額を各期に配分する方法によっております。



**【追加情報】**

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

※1 関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
投資有価証券(株式)	68百万円	68百万円

※2 減価償却累計額には、減損損失累計額が含まれております。

※3 国庫補助金の受入れにより、取得価額より控除した固定資産の圧縮記帳累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
機械装置及び運搬具	334百万円	334百万円

※4 連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当連結会計年度の末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
受取手形	－百万円	2,761百万円

5 当座貸越契約及び貸出コミットメント契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。これらの契約に基づく連結会計年度末の借入未実効残高は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
当座貸越極度額及び貸出コミットメントの 総額	41,600百万円	40,600百万円
借入実行残高	6,600	5,500
差引額	35,000	35,100

## (連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
販売促進費	2,955百万円	2,946百万円
運搬及び保管費	10,163	11,491
役員報酬	476	506
従業員給与	4,962	5,485
役員賞与引当金繰入額	90	101
賞与引当金繰入額	655	792
退職給付費用	265	257
役員退職慰労引当金繰入額	94	71
減価償却費	1,915	1,982
貸倒引当金繰入額	—	24

※2 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
	1,101百万円	1,051百万円

※3 固定資産売却益の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
機械装置及び運搬具	2百万円	2百万円
その他	0	1
計	2	4

※4 固定資産除売却損の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
(除却損)		
建物及び構築物	38百万円	2百万円
機械装置及び運搬具	33	15
その他	7	13
小計	80	31
(売却損)		
機械装置及び運搬具	0百万円	1百万円
土地	107	—
その他	10	1
小計	118	2
合計	198	33

※5 前連結会計年度の受取保険金は、東日本大震災による固定資産やたな卸資産に対する損害保険金の受取見込額及び子会社における生命保険料の解約収入であります。

※6 災害による損失は、東日本大震災によるもので、その内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
被災資産の原状回復費用	408百万円	81百万円
自家発電機移設費用	—	51
たな卸資産減失損	152	30
その他	134	77

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金：

当期発生額	△11百万円
組替調整額	90
税効果調整前	78
税効果額	△4
その他有価証券評価差額金	74
その他の包括利益合計	74

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数(株)	当連結会計年度増加株式数(株)	当連結会計年度減少株式数(株)	当連結会計年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	22,142,106	—	—	22,142,106
合計	22,142,106	—	—	22,142,106
自己株式				
普通株式(注)	1,257,985	453,025	267,160	1,443,850
合計	1,257,985	453,025	267,160	1,443,850

(注) 1 普通株式の自己株式の株式数の増加の内訳は、公開買付によるもの452,300株(うち新規連結会社が保有していたもの54,800株)及び単元未満株式の買取りによる増加725株であります。

2 普通株式の自己株式の株式数の減少は、株式交換に伴う払出し267,160株であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年5月31日取締役会	普通株式	1,085	52	平成22年3月31日	平成22年6月14日
平成22年11月8日取締役会	普通株式	1,208	58	平成22年9月30日	平成22年11月26日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年5月27日取締役会	普通株式	1,200	利益剰余金	58	平成23年3月31日	平成23年6月13日

当連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数(株)	当連結会計年度増加株式数(株)	当連結会計年度減少株式数(株)	当連結会計年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	22,142,106	—	—	22,142,106
合計	22,142,106	—	—	22,142,106
自己株式				
普通株式(注)	1,443,850	224	50	1,444,024
合計	1,443,850	224	50	1,444,024

(注) 1 普通株式の自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2 普通株式の自己株式の株式数の減少は、単元未満株式の売渡しによるものであります。

## 2. 配当に関する事項

### (1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年5月27日 取締役会	普通株式	1,200	58	平成23年3月31日	平成23年6月13日
平成23年11月8日 取締役会	普通株式	1,200	58	平成23年9月30日	平成23年11月25日

### (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年5月25日 取締役会	普通株式	1,241	利益剰余金	60	平成24年3月31日	平成24年6月11日

### (連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
現金及び預金勘定	13,273百万円	13,909百万円
現金及び現金同等物	13,273	13,909

### (リース取引関係)

#### (借主側)

#### 1. ファイナンス・リース取引

##### 所有権移転外ファイナンス・リース取引

#### ① リース資産の内容

##### 有形固定資産

主として、合成樹脂製簡易食品容器の製造設備の一部、電子計算機周辺端末機器（「機械装置及び運搬具」、「その他」）であります。

#### ② リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的で安全性の高い預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入及び短期社債（コマーシャル・ペーパー）の発行による方針です。デリバティブは、外貨建取引の為替相場変動リスクを回避する目的で為替予約等を行い、投機的な取引は行わない方針です。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、取引先の信用リスクに晒されています。当該リスクに関しては、取引先与信管理規程に従い、取引先ごとの与信限度額管理及び残高管理を行うとともに、全ての取引先の信用状況を、定期的に信用調査等にて把握する体制としています。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されていますが、主に業務上の取引関係を有する企業の株式であり、毎月末に時価を把握し、経営者に報告しております。

営業債務である買掛金の支払期日は、全て6ヶ月以内です。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金（主に3年以内）は主に設備投資に係る資金調達です。変動金利の借入金は、金利の為替リスクに晒されています。

デリバティブ取引は、外貨建での営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした為替予約取引であります。デリバティブ取引の執行・管理については、社内規程に従って行っており、また、デリバティブ取引の利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、格付けの高い金融機関とのみ取引を行っています。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

「2. 金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2. 参照）。

前連結会計年度（平成23年3月31日）

	連結貸借対照表 計上額（百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
(1) 現金及び預金	13,273	13,273	—
(2) 受取手形及び売掛金	31,540		
貸倒引当金(*1)	△27		
	31,513	31,513	—
(3) リース債権及びリース投資資産	30	30	—
(4) 未収入金	2,696	2,696	—
(5) 投資有価証券			
その他有価証券	2,475	2,475	—
資産計	49,989	49,989	—
(1) 買掛金	18,593	18,593	—
(2) 短期借入金	19,250	19,364	114
(3) コマーシャル・ペーパー	15,000	15,000	—
(4) リース債務（流動負債）	2,560	2,695	135
(5) 未払金	4,185	4,185	—
(6) 未払法人税等	2,465	2,465	—
(7) 未払消費税等	242	242	—
(8) 長期借入金	14,135	14,069	△66
(9) リース債務（固定負債）	7,410	7,429	19
負債計	83,844	84,047	203

(\*1) 受取手形及び売掛金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

	連結貸借対照表 計上額（百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
(1) 現金及び預金	13,909	13,909	—
(2) 受取手形及び売掛金	37,328		
貸倒引当金(*1)	△40		
	37,288	37,288	—
(3) リース債権及びリース投資資産	18	18	—
(4) 未収入金	2,296	2,296	—
(5) 投資有価証券			
その他有価証券	2,551	2,551	—
資産計	56,065	56,065	—



	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 買掛金	21,565	21,565	—
(2) 短期借入金	16,705	16,795	89
(3) コマーシャル・ペーパー	15,000	15,000	—
(4) リース債務 (流動負債)	2,196	2,306	109
(5) 未払金	6,434	6,434	—
(6) 未払法人税等	4,032	4,032	—
(7) 未払消費税等	650	650	—
(8) 長期借入金	15,603	15,529	△74
(9) リース債務 (固定負債)	6,403	6,418	15
負債計	88,591	88,731	140

(\*1)受取手形及び売掛金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項  
資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、(3) リース債権及びリース投資資産、(4) 未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

なお、受取手形及び売掛金については、貸倒引当金の個別引当及び個別に信用リスクを把握することが困難な先について、一括貸倒引当金を信用リスクと見做し、時価を算定しております。

(5) 投資有価証券

これらの時価は、取引所の価格によっております。

負 債

(1) 買掛金、(3) コマーシャル・ペーパー、(5) 未払金、(6) 未払法人税等、(7) 未払消費税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 短期借入金、(8) 長期借入金

固定金利による借入金については、DCF法を用いた(割引金利を「リスク・フリー・レート+スプレッド」とする計算方法)将来キャッシュ・フローの現在価値を合計し、時価を算定しております。

変動金利による借入金については、金利が一定期間ごとに更改される条件となっているため、時価は帳簿価格と近似していることから、当該帳簿価格によっております。

(4) リース債務 (流動負債)、(9) リース債務 (固定負債)

リース債務の時価については、DCF法を用いた(割引金利を「リスク・フリー・レート+スプレッド」とする計算方法)将来キャッシュ・フローの現在価値として、算定しております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
非上場株式	465	450

これらについては、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュフローを見積るには過大なコストを要すると見込まれます。従って、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、「(5) 其他有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度 (平成23年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)
現金及び預金	13,273	—	—
受取手形及び売掛金	31,540	—	—
リース債権及びリース投資資産	30	—	—
未収入金	2,696	—	—
投資有価証券			
其他有価証券	—	5	29
合計	47,541	5	29

当連結会計年度 (平成24年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)
現金及び預金	13,909	—	—
受取手形及び売掛金	37,328	—	—
リース債権及びリース投資資産	18	—	—
未収入金	2,296	—	—
投資有価証券			
其他有価証券	5	31	—
合計	53,558	31	—

4. 長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額については、連結附属明細表「借入金等明細表」をご参照下さい。

## (有価証券関係)

## 1. その他有価証券

前連結会計年度 (平成23年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	1,586	964	622
	(2) その他	41	38	2
	小計	1,628	1,003	624
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	837	1,008	△170
	(2) その他	9	10	△0
	小計	847	1,018	△170
合計		2,475	2,021	454

当連結会計年度 (平成24年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	1,697	1,103	593
	(2) その他	44	38	5
	小計	1,741	1,141	599
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	800	866	△66
	(2) その他	9	10	△0
	小計	810	876	△66
合計		2,551	2,018	533

## 2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	522	14	0
合計	522	14	0

当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	8	—	0
合計	8	—	0

### 3. 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、その他有価証券について89百万円の減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

#### (デリバティブ取引関係)

##### 1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前連結会計年度（平成23年3月31日）

重要性なく記載を省略しております。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

重要性なく記載を省略しております。

##### 2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

前連結会計年度（平成23年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。

その他の連結子会社は、主として確定拠出型掛金制度として中小企業退職金共済掛金制度に加入しております。また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
(1) 退職給付債務 (百万円)	△3,362	△3,507
(2) 年金資産 (百万円)	1,447	1,505
(3) 未積立退職給付債務(1) + (2) (百万円)	△1,915	△2,002
(4) 未認識数理計算上の差異 (百万円)	46	22
(5) 未認識過去勤務債務 (債務の減額) (百万円)	30	8
(6) 連結貸借対照表計上額純額(3) + (4) + (5) (百万円)	△1,837	△1,971
(7) 前払年金費用 (百万円)	—	—
(8) 退職給付引当金(6) - (7) (百万円)	△1,837	△1,971

(注) 連結子会社の退職給付債務の算定に当たっては、簡便法を採用しております。

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
退職給付費用 (百万円)	519	514
(1) 勤務費用 (百万円)	438	425
(2) 利息費用 (百万円)	43	46
(3) 期待運用収益 (減算) (百万円)	△13	△14
(4) 過去勤務債務の費用処理額 (百万円)	21	21
(5) 数理計算上の差異の費用処理額 (百万円)	28	35

(注) 確定拠出型の退職金制度を採用している連結子会社の掛金拠出額は、勤務費用に含めております。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(2) 割引率

前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
2.0%	2.0%

(3) 期待運用収益率

前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1.5%	1.5%

(4) 過去勤務債務の処理年数

5年（発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により費用処理しております。）

(5) 数理計算上の差異の処理年数

5年（各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から損益処理しております。）

（ストック・オプション等関係）

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税否認額	196百万円	279百万円
賞与引当金	635	653
退職給付引当金	739	695
役員退職慰労引当金	422	389
投資有価証券評価損	148	157
未払費用否認額	595	393
その他	569	575
繰延税金資産の総額	3,307	3,144
評価性引当額	△386	△461
繰延税金資産計	2,921	2,683
繰延税金負債との相殺	△513	△266
繰延税金資産の純額	2,407	2,416
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△251	△211
受取保険金	△202	—
その他	△90	△82
繰延税金負債計	△544	△293
繰延税金資産との相殺	513	266
繰延税金負債の純額	△30	△27

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率 (調整)	40.4%	40.4%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.4	0.4
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△0.7	△0.1
住民税均等割	0.5	0.4
のれん償却額	0.5	0.9
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	—	1.8
その他	△0.3	0.6
税効果会計適用後の法人税等の負担率	40.8	44.4

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.4%から平成24年4月1日に開始する連結会計年度から平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については37.7%に、平成27年4月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については、35.3%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は236百万円減少し、法人税等調整額が263百万円、その他有価証券評価差額金が27百万円、それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

当社は、主な賃借建物であります東京本社オフィスならびに大阪支店オフィスの不動産賃借契約に基づき、オフィスの退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、敷金が計上されているため、資産除去債務適用指針第9項の規定する方法（資産除去債務の計上に代えて、敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当期の負担に属する金額を費用に計上する方法）で処理しております。

(賃貸等不動産関係)

当社及び一部の連結子会社では、広島県福山市その他の地域において、賃貸用の商業施設（土地を含む。）を有しております。

前連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は41百万円（賃貸収益は売上高または営業外収益に、主な賃貸費用は営業外費用に計上）であります。

当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は29百万円（賃貸収益は売上高または営業外収益に、主な賃貸費用は営業外費用に計上）であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	2,626	2,320
期中増減額	△305	△60
期末残高	2,320	2,260
期末時価	2,745	2,696

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
2. 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な増加額は平成22年10月1日に株式取得により連結子会社となったインターパック㈱に係る賃貸等不動産（45百万円）であり、主な減少額は不動産売却（327百万円）であります。当連結会計年度の主な減少額は減価償却（23百万円）であります。
3. 期末の時価は、主として「固定資産税評価額」または「路線価」に基づいて自社で算定した金額（指標等を用いて調整を行ったものを含む。）であります。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）及び当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

当社グループは、簡易食品容器関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）及び当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

連結損益計算書の売上高の10%以上を占める特定顧客が存在しないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

当社グループは、簡易食品容器関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

当社グループは、簡易食品容器関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

当社グループは、簡易食品容器関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

当社グループは、簡易食品容器関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	㈱HYコーポレーション	広島県福山市	50	不動産賃貸・管理	—	土地の賃貸	配送センター用地の賃貸	11	前受収益	0

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	㈱HYコーポレーション	広島県福山市	50	不動産賃貸・管理	—	土地の賃貸	配送センター用地の賃貸	11	前受収益	0

- (注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。  
 2. 取引条件及び取引条件の決定方針等  
 土地の賃貸料については、近隣の地代を参考にした価格によって決定しております。  
 3. ㈱HYコーポレーションは、当社代表取締役会長小松安弘が議決権の100%を所有している会社であります。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	㈱HYコーポレーション	広島県福山市	50	不動産賃貸・管理	—	土地・建物の賃借	配送センターの賃借	133	前払費用 敷金	11 111
子会社の役員及び役員 の近親者	小松 毅至	—	—	連結子会社エフピコ商事㈱専務取締役及び当社代表取締役小松安弘の娘婿	(被所有) — 0.00	子会社株式の購入	エフピコ商事㈱による子会社株式の購入	30	—	—
役員 の近親者	佐藤 英美	—	—	当社代表取締役小松安弘の娘及び当社代表取締役社長佐藤守正の配偶者	(被所有) — 0.02	子会社株式の購入	エフピコ商事㈱による子会社株式の購入	30	—	—

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	㈱HYコーポレーション	広島県福山市	50	不動産賃貸・管理	—	土地・建物の賃借	配送センターの賃借	133	前払費用 敷金	11 111

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(1) 土地の賃借料については、近隣の地代を参考にした価格によって決定しております。

(2) 建物の賃借料については、近隣の取引実勢等を参考にした価格によって決定しております。

3. ㈱HYコーポレーションは、当社代表取締役会長小松安弘が議決権の100%を所有している会社であります。

(開示対象特別目的会社関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	3,111.61円	3,390.22円
1株当たり当期純利益金額	380.90円	391.03円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
当期純利益金額 (百万円)	7,959	8,093
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益金額 (百万円)	7,959	8,093
期中平均株式数 (千株)	20,896	20,698

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## ⑤【連結附属明細表】

## 【社債明細表】

該当事項はありません。

## 【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	6,600	5,500	0.29	—
1年以内に返済予定の長期借入金	12,650	11,205	0.75	—
1年以内に返済予定のリース債務	2,560	2,196	1.93	—
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	14,135	15,603	0.54	平成25年4月～ 平成28年12月
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）	7,410	6,403	1.81	平成25年4月～ 平成32年2月
その他有利子負債 コマーシャル・ペーパー（1年以内返済予定） 営業保証金（固定負債「その他」）	15,000 112	15,000 65	0.11 0.03	— 当該保証金の性 格上、定められ た返済期限はあ りません。
合計	58,469	55,974	—	—

(注) 1 平均利率については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金及びリース債務（1年以内に返済予定のものを除く）の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額は、次のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	7,034	3,872	1,551	3,144
リース債務	1,940	1,710	1,240	786

## 【資産除去債務明細表】

当社は、主な賃借建物であります東京本社オフィスならびに大阪支店オフィスの不動産賃借契約に基づき、オフィスの退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、敷金が計上されているため、資産除去債務適用指針第9項の規定する方法（資産除去債務の計上に代えて、敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当期の負担に属する金額を費用に計上する方法）で処理しております。

従って、資産除去債務明細表に記載すべき金額がないため、記載を省略しております。

## (2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	37,229	76,882	120,476	155,681
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(百万円)	2,420	6,591	12,291	14,569
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	1,396	3,781	6,878	8,093
1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円)	67.45	182.72	332.33	391.03

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	67.45	115.27	149.61	58.70

2 【財務諸表等】  
 (1) 【財務諸表】  
 ① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	12,348	13,145
受取手形	9,391	※3 12,508
売掛金	※2 15,862	※2 18,129
販売用不動産	12	12
リース投資資産	33	34
商品及び製品	9,362	10,804
仕掛品	59	48
原材料及び貯蔵品	1,532	1,635
前払費用	309	325
繰延税金資産	800	838
未収入金	※2 2,414	※2 2,029
関係会社短期貸付金	※5 8,571	※5 7,796
その他	20	19
貸倒引当金	△15	△13
流動資産合計	60,703	67,316
固定資産		
有形固定資産		
建物	56,426	58,887
減価償却累計額	△29,536	△31,245
建物（純額）	26,889	27,641
構築物	3,594	3,706
減価償却累計額	△2,467	△2,616
構築物（純額）	1,126	1,089
機械及び装置	20,954	22,831
減価償却累計額	△13,920	△15,727
機械及び装置（純額）	7,033	7,104
車両運搬具	326	340
減価償却累計額	△252	△279
車両運搬具（純額）	73	60
工具、器具及び備品	12,706	14,943
減価償却累計額	※1 △9,413	※1 △11,254
工具、器具及び備品（純額）	3,292	3,689
土地	21,623	21,858
リース資産	15,375	15,010
減価償却累計額	△6,630	△7,444
リース資産（純額）	8,744	7,566
建設仮勘定	1,504	3,764
有形固定資産合計	70,289	72,774
無形固定資産		
ソフトウェア	766	737
ソフトウェア仮勘定	25	71
その他	82	64
無形固定資産合計	874	872

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	2,633	2,652
関係会社株式	3,829	3,810
出資金	13	15
従業員に対する長期貸付金	51	41
破産更生債権等	7	7
長期前払費用	16	7
繰延税金資産	811	754
敷金及び保証金	※2 682	※2 681
その他	440	421
貸倒引当金	△50	△48
投資その他の資産合計	8,435	8,344
固定資産合計	79,600	81,992
資産合計	140,304	149,308
負債の部		
流動負債		
買掛金	※2 12,206	※2 15,074
短期借入金	※2, ※5 9,766	※2, ※5 8,879
コマーシャル・ペーパー	15,000	15,000
1年内返済予定の長期借入金	12,650	11,205
リース債務	2,384	2,068
未払金	※2 4,920	※2 6,903
未払費用	1,487	1,101
未払法人税等	1,621	3,208
預り金	40	83
賞与引当金	579	651
役員賞与引当金	76	80
その他	79	460
流動負債合計	60,814	64,715
固定負債		
長期借入金	14,135	15,603
リース債務	6,967	6,090
退職給付引当金	1,303	1,453
役員退職慰労引当金	989	1,031
その他	115	69
固定負債合計	23,512	24,248
負債合計	84,326	88,963

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,150	13,150
資本剰余金		
資本準備金	15,487	15,487
その他資本剰余金	346	346
資本剰余金合計	15,833	15,833
利益剰余金		
利益準備金	667	667
その他利益剰余金		
別途積立金	15,200	15,200
繰越利益剰余金	15,893	20,194
利益剰余金合計	31,761	36,062
自己株式	△5,035	△5,036
株主資本合計	55,709	60,009
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	268	335
評価・換算差額等合計	268	335
純資産合計	55,977	60,345
負債純資産合計	140,304	149,308

## ②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
売上高		
製品売上高	96,053	101,728
商品売上高	20,621	21,503
売上高合計	116,674	123,232
売上原価		
製品売上原価		
製品期首たな卸高	8,539	8,642
当期製品仕入高	※4 9,463	※4 7,384
当期製品製造原価	※4, ※6 52,976	※4, ※6 59,458
合計	70,979	75,486
製品他勘定振替高	※1 313	※1 99
製品期末たな卸高	8,642	10,151
製品売上原価	62,023	65,235
商品売上原価		
商品期首たな卸高	※3 205	※3 230
当期商品仕入高	※4 19,190	※4 19,980
合計	19,396	20,210
商品他勘定振替高	※2 9	※2 12
商品期末たな卸高	※3 230	※3 148
商品売上原価	19,156	20,049
売上原価合計	81,179	85,284
売上総利益	35,495	37,948
販売費及び一般管理費	※5, ※6 24,992	※5, ※6 25,826
営業利益	10,502	12,121
営業外収益		
受取利息	40	37
受取配当金	72	62
仕入割引	8	4
受取賃貸料	※4 155	※4 168
受取手数料	53	50
スクラップ売却益	98	96
その他	86	128
営業外収益合計	515	547
営業外費用		
支払利息	486	400
その他	173	175
営業外費用合計	659	575
経常利益	10,358	12,093



(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	※7 1	※7 1
受取保険金	※9 500	—
関係会社清算益	22	5
貸倒引当金戻入額	22	—
特別利益合計	547	7
<b>特別損失</b>		
固定資産除売却損	※8 159	※8 29
災害による損失	※10 691	※4, ※10 242
投資有価証券評価損	6	87
その他	2	23
特別損失合計	860	383
税引前当期純利益	10,045	11,718
法人税、住民税及び事業税	3,742	4,999
法人税等調整額	351	16
法人税等合計	4,093	5,016
当期純利益	5,952	6,701

【製造原価明細書】

		前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)		当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	
区分	注記 番号	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
I 材料費	※2	31,101	58.4	35,925	60.4
II 労務費		1,366	2.6	1,386	2.3
III 経費		20,731	39.0	22,152	37.3
当期総製造費用		53,199	100.0	59,463	100.0
期首半製品たな卸高		321		501	
期首仕掛品たな卸高		15		59	
合計		53,537		60,024	
期末半製品たな卸高		501		517	
期末仕掛品たな卸高		59		48	
当期製品製造原価		52,976		59,458	

(注) 1 原価計算の方法は、組別総合原価計算を採用しております。

※2 経費の主な内訳は次のとおりであります。

	前事業年度	当事業年度
外注加工費	7,589 百万円	8,137 百万円
減価償却費	6,772	6,926
電力料	2,236	2,381
運搬及び保管料	1,300	1,432

## ③【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日)
<b>株主資本</b>		
資本金		
当期首残高	13,150	13,150
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	13,150	13,150
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	15,487	15,487
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	15,487	15,487
その他資本剰余金		
当期首残高	0	346
当期変動額		
自己株式の処分	346	0
当期変動額合計	346	0
当期末残高	346	346
資本剰余金合計		
当期首残高	15,487	15,833
当期変動額		
自己株式の処分	346	0
当期変動額合計	346	0
当期末残高	15,833	15,833
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	667	667
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	667	667
その他利益剰余金		
別途積立金		
当期首残高	15,200	15,200
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	15,200	15,200
繰越利益剰余金		
当期首残高	12,238	15,893
当期変動額		
剰余金の配当	△2,297	△2,400

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
当期純利益	5,952	6,701
当期変動額合計	3,654	4,300
当期末残高	15,893	20,194
利益剰余金合計		
当期首残高	28,106	31,761
当期変動額		
剰余金の配当	△2,297	△2,400
当期純利益	5,952	6,701
当期変動額合計	3,654	4,300
当期末残高	31,761	36,062
自己株式		
当期首残高	△3,905	△5,035
当期変動額		
自己株式の取得	△1,960	△1
自己株式の処分	829	0
当期変動額合計	△1,130	△0
当期末残高	△5,035	△5,036
株主資本合計		
当期首残高	52,839	55,709
当期変動額		
剰余金の配当	△2,297	△2,400
当期純利益	5,952	6,701
自己株式の取得	△1,960	△1
自己株式の処分	1,175	0
当期変動額合計	2,869	4,300
当期末残高	55,709	60,009
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	570	268
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△302	67
当期変動額合計	△302	67
当期末残高	268	335
評価・換算差額等合計		
当期首残高	570	268
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△302	67
当期変動額合計	△302	67
当期末残高	268	335

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
純資産合計		
当期首残高	53,409	55,977
当期変動額		
剰余金の配当	△2,297	△2,400
当期純利益	5,952	6,701
自己株式の取得	△1,960	△1
自己株式の処分	1,175	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△302	67
当期変動額合計	2,567	4,367
当期末残高	55,977	60,345

## 【重要な会計方針】

### 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

### 2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 商品、製品、半製品、原材料及び仕掛品

月次総平均法による原価法 (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

#### (2) 販売用不動産

個別法による原価法 (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

#### (3) 貯蔵品

最終仕入原価法による原価法 (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

### 3. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産 (リース資産を除く)

定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物 (建物附属設備は除く) については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 15～35年

機械及び装置 8年

#### (2) 無形固定資産 (リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、ソフトウェア (自社利用分) については、社内における利用可能期間 (5年) に基づいております。

#### (3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

#### (4) 長期前払費用

定額法を採用しております。

### 4. 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

#### (3) 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えて、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。

#### (4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数 (5年) による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数 (5年) による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日次事業年度から損益処理しております。

#### (5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項  
消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

**【追加情報】**

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

※1 減価償却累計額には、減損損失累計額が含まれております。

※2 関係会社に対する債権・債務

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
流動資産		
売掛金	2,295百万円	2,712百万円
未収入金	315	309
固定資産		
敷金及び保証金	356	356
流動負債		
買掛金	1,694	1,867
短期借入金	3,166	3,379
未払金	2,092	2,178

※3 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当事業年度の末日が金融機関の休日であったため、次の事業年度末満期手形が事業年度末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
受取手形	－百万円	2,412百万円

4 当座貸越契約及び貸出コミットメント契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。これらの契約に基づく当事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
当座貸越極度額及び 貸出コミットメントの総額	41,600百万円	40,600百万円
借入実行残高	6,600	5,500
差引額	35,000	35,100

※5 キャッシュマネジメントシステム（CMS）

効率的資金運用を目的としてCMSの運用を行っております。

「関係会社短期貸付金」の残高には連結子会社に対する短期貸付金が、「短期借入金」の残高には連結子会社からの短期借入金が以下のとおり含まれております。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
短期貸付金	8,571百万円	7,796百万円
短期借入金	3,166	3,379



(損益計算書関係)

- ※1 製品他勘定振替高の内容は主として見本費であります。
- ※2 商品他勘定振替高の内容は主として見本費であります。
- ※3 「商品期首たな卸高」「商品期末たな卸高」にはそれぞれ販売用不動産に係る数値が含まれております。
- ※4 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
関係会社からの仕入高	17,953百万円	18,380百万円
関係会社への外注加工費	7,493	8,025
受取賃貸料	87	101
災害による損失	-	102

- ※5 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度87%、当事業年度87%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度13%、当事業年度13%であります。
- 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
販売促進費	2,925百万円	2,852百万円
運搬及び保管費	12,156	12,571
役員報酬	325	329
従業員給与	2,405	2,479
役員賞与引当金繰入額	76	80
賞与引当金繰入額	442	500
退職給付費用	182	196
役員退職慰労引当金繰入額	70	61
減価償却費	1,524	1,583
貸倒引当金繰入額	-	△3

- ※6 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
	1,101百万円	1,051百万円

※7 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
車両運搬具	0百万円	0百万円
その他	1	1
計	1	1

※8 固定資産除売却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
<除却損>		
建物	30百万円	2百万円
機械及び装置	31	13
備品	3	12
その他	0	0
小計	65	28
<売却損>		
土地	83	—
その他	10	1
小計	94	1
計	159	29

※9 前事業年度の受取保険金は、東日本大震災による固定資産やたな卸資産に対する損害保険金の受取見込額であります。

※10 災害による損失は東日本大震災によるもので、その内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
被災資産の原状回復費用	408	95
自家発電機移設費用	—	51
たな卸資産滅失損	152	15
その他	129	79

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
普通株式	1,257,985	453,025	267,160	1,443,850
合計	1,257,985	453,025	267,160	1,443,850

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加の内訳は、公開買付による増加452,300株ならびに単元未満株式の買取りによる増加725株であります。

普通株式の自己株式の株式数の減少は、株式交換による払出しによる減少であります。

当事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
普通株式	1,443,850	224	50	1,444,024
合計	1,443,850	224	50	1,444,024

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

普通株式の自己株式の株式数の減少は、単元未満株式の売渡しによる減少であります。

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

有形固定資産

主として、合成樹脂製簡易食品容器の製造設備の一部、電子計算機周辺端末機器(「機械及び装置」、「工具、器具及び備品」)であります。

② リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式3,742百万円、関連会社株式68百万円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式3,761百万円、関連会社株式68百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税否認額	129百万円	228百万円
賞与引当金	234	245
退職給付引当金	526	513
役員退職慰労引当金	399	366
投資有価証券評価損	114	130
未払費用否認額	523	334
その他	471	305
繰延税金資産小計	2,399	2,124
評価性引当額	△337	△325
繰延税金資産合計	2,061	1,798
繰延税金負債		
受取保険金	△202	-
その他有価証券評価差額金	△247	△204
繰延税金負債合計	△449	△204
繰延税金資産の純額	1,611	1,593

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	40.4%	40.4%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.4	0.3
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△0.2	△0.1
住民税均等割	0.3	0.3
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	-	1.6
その他	△0.2	0.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	40.7	42.8

## 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.4%から平成24年4月1日に開始する事業年度から平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については37.7%に、平成27年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については、35.3%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は162百万円減少し、法人税等調整額が188百万円、その他有価証券評価差額金が26百万円、それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

当社は、主な賃借建物であります東京本社オフィスならびに大阪支店オフィスの不動産賃借契約に基づき、オフィスの退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、敷金が計上されているため、資産除去債務適用指針第9項の規定する方法（資産除去債務の計上に代えて、敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当期の負担に属する金額を費用に計上する方法）で処理しております。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	2,704.46円	2,915.49円
1株当たり当期純利益金額	284.37円	323.79円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
当期純利益金額 (百万円)	5,952	6,701
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益金額 (百万円)	5,952	6,701
期中平均株式数 (千株)	20,931	20,698

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## ④【附属明細表】

## 【有価証券明細表】

## 【株式】

銘柄		株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	
投資有価証券	その他有価証券	積水化成工業(株)	2,697,867	817
		(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	959,300	395
		(株)高速	290,328	206
		(株)みずほフィナンシャルグループ(優先株式)	200,000	200
		(株)山口フィナンシャルグループ	113,911	85
		イオン(株)	74,563	81
		(株)西日本シティ銀行	343,587	80
		ホクト(株)	43,204	75
		マックスバリュ北海道(株)	50,182	72
		(株)T&Dホールディングス	69,200	66
		その他 49銘柄	264,822	533
計		5,106,964	2,614	

## 【その他】

種類及び銘柄		投資口数等 (口)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他有価証券 (投資信託受益証券) 証券投資信託受益証券 (2銘柄)	6,000	38
計		6,000	38

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	56,426	2,475	14	58,887	31,245	1,721	27,641
構築物	3,594	115	3	3,706	2,616	150	1,089
機械及び装置	20,954	2,015	138	22,831	15,727	1,930	7,104
車両運搬具	326	19	5	340	279	31	60
工具、器具及び備品	12,706	2,459	222	14,943	11,254	2,046	3,689
土地	21,623	255	20	21,858	—	—	21,858
リース資産	15,375	1,201	1,566	15,010	7,444	2,380	7,566
建設仮勘定	1,504	3,766	1,507	3,764	—	—	3,764
有形固定資産計	132,511	12,310	3,479	141,342	68,567	8,261	72,774
無形固定資産							
ソフトウェア	1,651	257	225	1,683	946	286	737
ソフトウェア仮勘定	25	129	83	71	—	—	71
その他	169	—	2	167	103	16	64
無形固定資産計	1,846	386	311	1,922	1,049	302	872
長期前払費用	25	2	11	16	8	0	7
	(13)	(1)	(10)	(4)			(4)

(注) 1 「当期末減価償却累計額又は償却累計額」欄には、減損損失累計額が含まれております。

2 当期増加額のうち、主なものは次のとおりであります。

(1) 建物の増加	中部新ピッキングセンター新築	2,044百万円
(2) 機械及び装置の増加	関東工場 生産設備の新規取得 中部工場 生産設備の新規取得 福山工場 生産設備の新規取得 山形工場 生産設備の新規取得	661 468 391 156
(3) 工具、器具及び備品の増加	成型用金型の取得 印刷版の取得	1,808 176
(4) 土地の増加	福山配送センター賃借地の購入	255
(5) 建設仮勘定の増加	関東新工場 生産設備及び土地の新規取得 関東押出工場 生産設備の新規取得 中部PETリサイクル工場 生産設備の新規取得	2,909 229 181

3 当期減少額のうち、主なものは次のとおりであります。

(1) リース資産の減少	リース契約満了に伴う減少	1,566百万円
(2) 建設仮勘定の減少	中部新ピッキングセンター新築に伴う振替	1,096百万円

4 長期前払費用の( )内の金額は内数で、経過費用の期間配分に係るものであり、減価償却と性格が異なるため、償却累計額及び当期償却額には含めておりません。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	66	4	1	7	61
賞与引当金	579	651	579	—	651
役員賞与引当金	76	80	76	—	80
役員退職慰労引当金	989	61	19	—	1,031

(注) 貸倒引当金の当期減少額その他は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

(a) 資産の部

(イ) 現金及び預金

区分	金額 (百万円)
現金	77
預金の種類	
当座預金	2,273
普通預金	10,778
別段預金	15
計	13,067
合計	13,145

(ロ) 受取手形

① 相手先別内訳

相手先	金額 (百万円)
(株)高速	1,862
(株)ヨネヤマ	675
光陽商事(株)	506
伊藤忠プラスチック(株)	429
(株)モリモト	420
その他	8,613
計	12,508

② 期日別内訳

期日	金額 (百万円)
平成24年4月満期	5,319
"    5月"	5,303
"    6月"	1,163
"    7月"	721
"    8月以降"	—
計	12,508



## (ハ) 売掛金

## ① 相手先別内訳

相手先	金額 (百万円)
インターパック(株)	1,431
ベンダーサービス(株)	1,233
(株)みやこひも	809
(株)高速	577
三菱商事パッケージング(株)	405
その他	13,672
計	18,129

## ② 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	回収率 (%)	滞留期間 (日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2}$ $\frac{(B)}{366}$
15,862	132,566	130,298	18,129	87.79	46.92

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

## (二) 販売用不動産

区分	数量 (㎡)		金額 (百万円)		
	土地	建物	土地	建物	合計
山梨県南都留郡	1,090.00	320.00	9	3	12
計	1,090.00	320.00	9	3	12

## (ホ) 商品及び製品

	区分	金額 (百万円)
商品	包装資材	120
	その他商品	15
	小計	136
製品	弁当容器	5,421
	トレー容器	3,203
	その他製品	1,526
	小計	10,151
半製品	弁当容器	489
	トレー容器	27
	小計	517
	合計	10,804

## (へ) 仕掛品

区分	金額 (百万円)
弁当容器	45
トレー容器	2
計	48

## (ト) 原材料及び貯蔵品

	区分	金額 (百万円)
原材料	レジン	454
	OPSシート	83
	PSPシート	207
	フィルム	245
	補助材料	35
	その他	176
	小計	1,203
貯蔵品	ポスター・カタログ	11
	機械装置の予備部品	40
	その他	380
	小計	431
	合計	1,635

## (チ) 関係会社短期貸付金

相手先	金額(百万円)
エフピコ商事(株)	2,967
(株)アルライト	1,920
インターパック(株)	1,232
ダイヤフーズ(株)	692
エフピコ物流(株)	491
その他	491
計	7,796

(b) 負債の部  
(イ) 買掛金

相手先	金額 (百万円)
積水化成成品工業㈱	4,811
エフピコ商事㈱	1,464
丸紅ブラックス㈱	1,320
豊田通商㈱	1,317
双日プラネット㈱	1,238
その他	4,922
計	15,074

(ロ) 短期借入金

相手先	金額 (百万円)
㈱もみじ銀行	900
㈱西日本シティ銀行	900
㈱中国銀行	800
㈱三菱東京UFJ銀行	700
㈱広島銀行	700
その他	4,879
計	8,879

(注) 「その他」の中には連結子会社を対象にしたキャッシュマネジメントシステム (CMS) の運用による借入金 3,379百万円が含まれております。

(ハ) コマーシャル・ペーパー

相手先	金額 (百万円)
セントラル短資㈱	6,000
㈱みずほ銀行	5,000
㈱三菱東京UFJ銀行	3,000
住友信託銀行㈱	1,000
計	15,000

(注) 平成24年4月1日に住友信託銀行㈱・中央三井信託銀行㈱・中央三井アセット信託銀行㈱の3行が合併し、「三井住友信託銀行㈱」となりました。

(二) 1年内返済予定の長期借入金

相手先	金額 (百万円)
(株)西日本シティ銀行	1,752
(株)もみじ銀行	1,304
(株)三菱東京UFJ銀行	1,165
農林中央金庫	1,000
(株)広島銀行	927
その他	5,056
計	11,205

(ホ) 長期借入金

相手先	金額 (百万円)
(株)中国銀行	2,250
(株)もみじ銀行	2,031
(株)三菱東京UFJ銀行	2,000
(株)三井住友銀行	1,769
(株)西日本シティ銀行	1,372
その他	6,181
計	15,603

(3) 【その他】

特に記載すべき事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで										
定時株主総会	6月中										
基準日	3月31日										
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日										
1単元の株式数	100株										
単元未満株式の買取り又は買増し  取扱場所  株主名簿管理人  取次所  単元未満株式の買取及び買増 手数料	<p>(特別口座) 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部</p> <p>(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社</p> <p>_____</p> <p>以下の算式により1単元当たりの金額を算定し、これを当該単元未満株式の 数で按分した金額とする。 (算式) 1株当たりの買取単価及び買増単価に1単元の株式数を乗じた合計金額の うち</p> <table> <tr> <td>100万円以下の金額につき</td> <td>1.150%</td> </tr> <tr> <td>100万円を超え500万円以下の金額につき</td> <td>0.900%</td> </tr> <tr> <td>500万円を超え1,000万円以下の金額につき</td> <td>0.700%</td> </tr> <tr> <td>1,000万円を超え3,000万円以下の金額につき</td> <td>0.575%</td> </tr> <tr> <td>3,000万円を超え5,000万円以下の金額につき</td> <td>0.375%</td> </tr> </table> <p>(円未満の端数を生じた場合には切り捨てる。) ただし、1単元当たりの算定金額が2,500円に満たない場合には、2,500円 とする。</p>	100万円以下の金額につき	1.150%	100万円を超え500万円以下の金額につき	0.900%	500万円を超え1,000万円以下の金額につき	0.700%	1,000万円を超え3,000万円以下の金額につき	0.575%	3,000万円を超え5,000万円以下の金額につき	0.375%
100万円以下の金額につき	1.150%										
100万円を超え500万円以下の金額につき	0.900%										
500万円を超え1,000万円以下の金額につき	0.700%										
1,000万円を超え3,000万円以下の金額につき	0.575%										
3,000万円を超え5,000万円以下の金額につき	0.375%										
公告掲載方法	<p>電子公告により行う。ただし、電子公告によることができない事故その他 やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。</p> <p>公告掲載URL <a href="http://www.fpc.jp/">http://www.fpc.jp/</a></p>										
株主に対する特典	該当事項はありません										

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有していません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類ならびに確認書

事業年度（第49期）（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）平成23年6月30日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成23年6月30日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第50期第1四半期）（自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日）平成23年8月10日関東財務局長に提出

（第50期第2四半期）（自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日）平成23年11月10日関東財務局長に提出

（第50期第3四半期）（自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日）平成24年2月8日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成23年7月4日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年 6月28日

株式会社エフピコ

取締役会 御中

## 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 近藤 敏博 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 高木 政秋 印

### <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社エフピコの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社エフピコ及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。



## <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社エフピコの平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、株式会社エフピコが平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
2. 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

平成24年 6月28日

株式会社エフピコ

取締役会 御中

## 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 近藤 敏博 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 高木 政秋 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社エフピコの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第50期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社エフピコの平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

## 【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年6月29日
【会社名】	株式会社エフピコ
【英訳名】	FP CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 佐藤 守正
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	広島県福山市曙町一丁目12番15号
【縦覧に供する場所】	株式会社エフピコ東京本社 (東京都新宿区西新宿六丁目8番1号 新宿オークタワー36F) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長佐藤守正は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しています。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものです。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

## 2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である平成24年3月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しました。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しています。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、会社並びに連結子会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定しました。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、会社及び連結子会社3社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定しました。なお、評価対象となる3社を除く連結子会社31社については、金額的及び質的重要性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲に含めておりません。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の前連結会計年度の売上高（連結会社間取引消去後）の金額が高い拠点から合算していき、前連結会計年度の連結売上高の概ね2/3に達している1事業拠点を「重要な事業拠点」としました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金及び棚卸資産に至る業務プロセスを評価の対象としました。さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しています。

## 3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断しました。

## 4 【付記事項】

付記すべき事項はありません。

## 5 【特記事項】

特記すべき事項はありません。